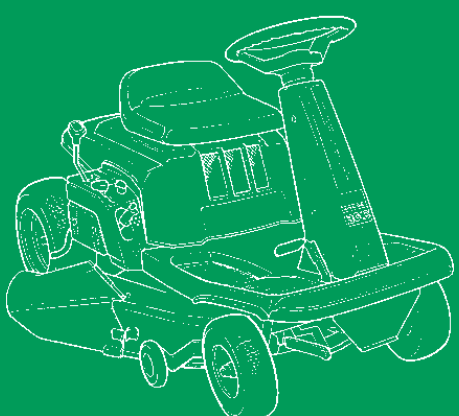
HONDA
汎用製品

# 乗用型芝刈機
# H3013H
# 取扱説明書



ご使用になる前に、必ずこの取扱説明書を
お読みください。

# Honda乗用芝刈機をお買いあげいただき誠にありがとうございます。

お買いあげいただきました商品や、サービスに関してお気づきの点、ご意見などがございましたら、**お買いあげいただいた販売店**にお気軽にお申しつけください。

**取扱説明について**

この取扱説明書は

- 芝刈り作業をするときには必ず携帯してください。
- 紛失や損傷の起きない場所に保管してください。
- 乗用芝刈機を貸与または譲渡される場合は、本機といっしょにお渡しください。
- 紛失や損傷したときは、お買いあげいただいた販売店にご注文ください。

本製品は、（社）日本陸用内燃機関協会の小型汎用ガソリン　エンジン排出ガス自主規制に適合しています。

# はじめに

この取扱説明書は、お買いあげいただいた乗用芝刈機を安全に正しく操作する手助けとして編集されたものです。
取扱説明書の中には、本機の正しい取扱い方法、簡単な点検及び手入れについて説明してあります。
本機を運転する前にこの取扱説明書を良くお読みいただき、乗用芝刈機の操作に習熟してください。

**安全に関する表示について**
本書では、運転者や他の人が傷害を負ったりする可能性のある事柄を下記の表示を使って記載し、その危険性や回避方法などを説明しています。これらは安全上特に重要な項目です。必ずお読みいただき指示に従ってください。

**⚠危険**
**指示に従わないと、死亡または重大な傷害に至るもの**

**⚠警告**
**指示に従わないと、死亡または重大な傷害に至る可能性があるもの**

**⚠注意**
**指示に従わないと、傷害を受ける可能性があるもの**

**その他の指示**

**取扱いのポイント**
**指示に従わないと、本機やその他の物が損傷する可能性があるもの**

なお、この取扱説明書は、仕様変更等によりイラスト、内容が一部実機と異なる場合があります。

# 目　　次


安全にお使いいただくために これだけはぜひ守りましょう ..... 4
安全ラベル ..... 8
各部の名称と取扱いをおぼえましょう ..... 10
エンジン　スイッチ ..... 12
エンジン回転調整レバー ..... 12
刈取り高さ調整レバー ..... 13
刈刃クラッチ　レバー ..... 13
走行変速レバー ..... 14
ブレーキ　ペダル ..... 15
駐車ブレーキ　レバー ..... 15
警報ブザー ..... 16
取扱説明書収納ポケット ..... 16
マニュアル　レバー ..... 17
作業前に点検、調整しましょう ..... 18
冷却空気取入れ口の点検 ..... 18
バッテリ液の点検 ..... 18
エンジン　オイルの点検 ..... 20
燃料の点検 ..... 21
エア　クリーナ（空気清浄器）の点検 ..... 23
シートの位置調整 ..... 24
ブレーキ　ライニングの点検 ..... 24
刈刃ベルトの点検 ..... 25
刈刃の点検 ..... 26
刈刃クラッチ　レバー　スイッチ・走行変速レバー　スイッチの点検 ... 27
シート　スイッチの点検 ..... 29
駐車ブレーキ　システムの点検 ..... 30
HST（変速機）オイルの点検 ..... 31
タイヤ空気圧の点検 ..... 32
エンジンのかけかた ..... 33
運転操作のしかた ..... 36
芝刈機のとめかた ..... 40

定期点検を行いましょう ..... 41
点検・整備のしかた ..... 42
エンジン　オイルの交換 ..... 42
エア　クリーナ（空気清浄器）の清掃 ..... 44
点火プラグの点検、調整、交換 ..... 45
車輪の取外し、取付け ..... 46
刈刃カバーの外しかた ..... 47
刈刃ベルトの調整、交換 ..... 50
走行駆動ベルトの交換 ..... 52
刈刃の点検、交換 ..... 53
ヒューズの交換 ..... 57
スパーク　アレスタの清掃 ..... 58
運搬のしかた ..... 59
長期間使用しないときの手入れ ..... 61
故障のときは ..... 63
主要諸元 ..... 65
配線図 ..... 66

**警告**

あなたと他の人の安全を守るために次の指示に従ってください。

## ●作業を始める前に

- この取扱説明書を事前に読み、正しい取扱い方法を十分にご理解の上操作してください。
- 間違いなく取扱うために各部の操作になれ、すばやく停止する方法を習得してください。
- 適切な指示、説明なしでは誰にも本機を使用させないでください。特に子供には操作させないでください。事故や機器の損傷が起こる原因となります。
- 本機を他人に貸す場合は、取扱い方法を良く説明し、取扱説明書を良く読むように指導してください。
- 過労や飲酒、薬物を服用して本機を使用しないでください。判断が鈍り重大な事故を引き起こすことがあります。
- 日常点検、整備を必ず行い本機を常に良好な操作状態においてください。不具合な状態や問題のある状態で操作すると、ケガをしたり本機を損傷する原因となります。
- ガソリンは非常に引火しやすく、また気化したガソリンは爆発して死傷事故を引き起こすおそれがあります。燃料を補給するときは必ずエンジンを停止して換気の良い場所で行ってください。
- 燃料を補給するときや燃料タンクの付近では、タバコを吸ったり炎や火花など火気を近づけないでください。
- 燃料をこぼさないように注意して給油限界位置を越えないように補給し、燃料タンクキャップを確実に締めてください。もし燃料がこぼれた場合は、きれいにふき取りよく乾かしてからエンジンを始動してください。
- 屋内や換気の悪い場所では、エンジンをかけないでください。有害な一酸化炭素がたまってガス中毒を引き起こすおそれがあります。
- カバーやラベル類、その他の部品を外して操作しないでください。
- 誤った部品を取付けたり改造をしないでください。思わぬ事故の原因となることがあります。
- 本機の乗車定員は１名です。運転者以外の人や物を乗せないでください。また道路および一般交通に供するような所では走行できません。

# こ れ だ け は ぜ ひ 守 り ま し ょ う

**警告**

- 防護装置（リヤ カバー、刈刃カバー、放出カバー）は正しく取付けられているか確認してから作業してください。
- 本機は－5℃以上、40℃以下の環境でご使用ください。外気温が－6℃以下になるような環境で使用すると、防護装置が損傷し、事故を起こす可能性があります。
- 衣類や頭髪、手ぬぐいなどが巻き込まれないよう作業に適した服装をし、防護メガネ、作業に適した靴などを用いて作業してください。
- 夜間や悪天候などで視界の悪いときは作業しないでください。事故の危険性が高くなります。
- 放出物や衝突による事故防止のため、作業範囲内の石、空き缶、板切れなど全ての異物を取除いてください。
- 本機を使用する前に必ず刈刃を点検してください。刈刃が摩耗、損傷していると破片によって大ケガをすることがあります。点検は必ず厚手の手袋を着用してください。
- 本機は芝刈り以外の目的で使用しないでください。故障の原因となるばかりでなく、思わぬ事故を引き起こすことがあります。
- 後進で芝刈り作業しないでください。本機が損傷することがあります。後進するときは、刈刃を停止させ刈取り高さを最も高い位置にしてください。

- 急斜面の芝刈り作業は、本機を使用して行わないでください。転倒防止のため傾斜10°以下の斜面でご使用ください。
- 斜面（10°以下）の芝刈り作業を行うときは、斜面を上下方向に行ってください。また収納袋に（別売部品）に芝が半分たまったら、捨てて収納袋を空にしてください。バランスを失い転倒するおそれがあります。
- 収納袋（別売部品）は、作業前に損傷していないか点検してください。すり切れて小穴があいていたり、縫目が破れたまま使用しないでください。

**警告**

**●作業中**

- エンジンが始動しているときは、手や足を刈刃カバーの上におかないでください。刈刃は鋭くとがっていて高速で回転しています。誤って接触すると大ケガをします。
- 芝刈り作業範囲内に石などの異物があると、刈刃の回転力により石飛びが発生することがあります。人身および物損事故が起きないよう作業時には十分注意してください。
- 作業範囲内に人や動物などを近づけないでください。もし人や動物が近づいたら作業を停止してください。また作業している周辺に人家や車などがある場合は、防護シートなどでおおってから作業を行ってください。
- 収納袋（別売部品）を着脱するときは、必ずエンジンを停止して行ってください。
- 芝収納キット（別売部品）を着脱するときは、必ずエンジンを停止し、エンジン　スイッチ　キーを抜いてください。
- 移動、方向転換するときは刈刃クラッチ　レバーを＂切＂にし、刈刃が停止してから行ってください。刈刃が回転していると異物などの飛び出しにより大ケガをするおそれがあります。
- 刈刃カバー内に刈取った芝が詰まったときは、速やかに刈刃を停止させ、芝の除去が完全に行える場所に本機を移動してください。移動後エンジンを停止し、点火プラグ　キャップを外し、厚手の手袋を着用して芝の除去作業してください。
- 本機に草や木の葉を蓄積させたままにしないでください。草や木の葉は燃えやすく特にエンジンの近くにあると火災の原因となります。
- 作業中、障害物に当たったときは、すぐエンジンを停止させ、万一の始動を防止するためにエンジン　スイッチ　キーを外し、損傷の有無を調べてください。損傷があった場合修理しないで再始動すると、損傷した部品が飛び出すなどして大ケガをするおそれがあります。
- 本機から離れるときは、他の人が運転できないように、エンジン　スイッチ　キーを抜いて持っていってください。
- 過労による事故防止のため、長時間連続の作業をせず途中休憩を取ってください。

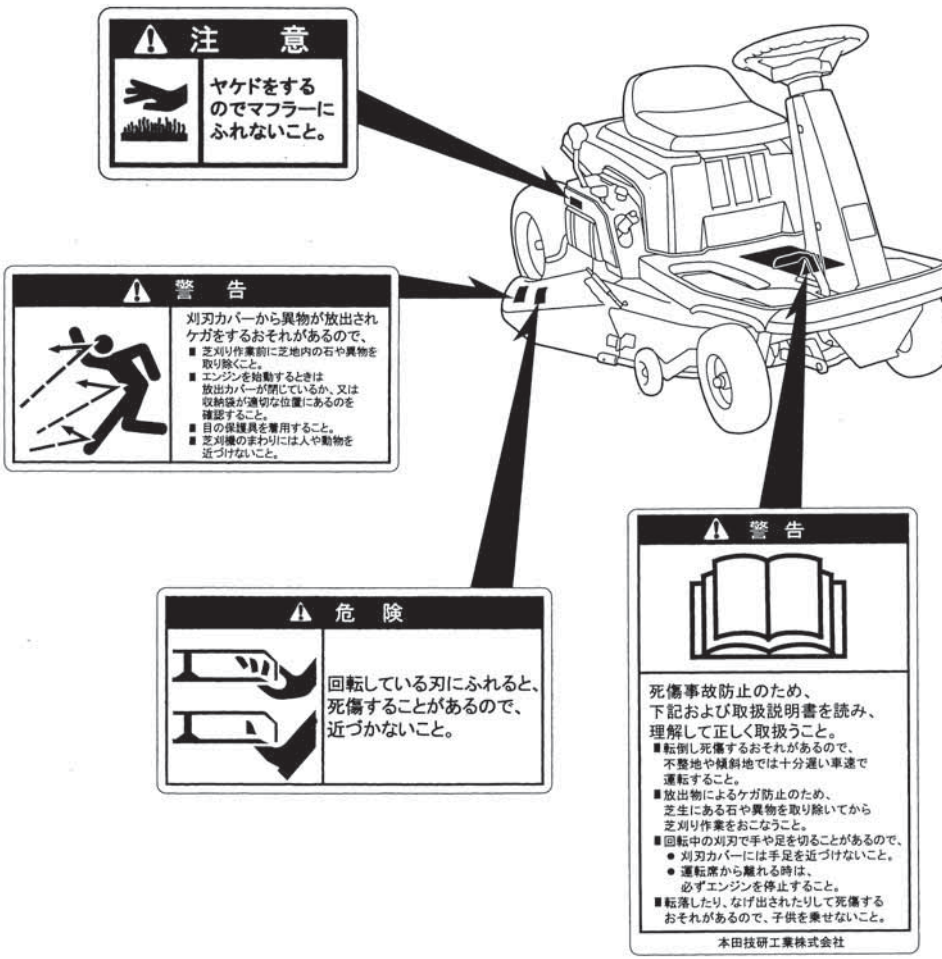
**警告**

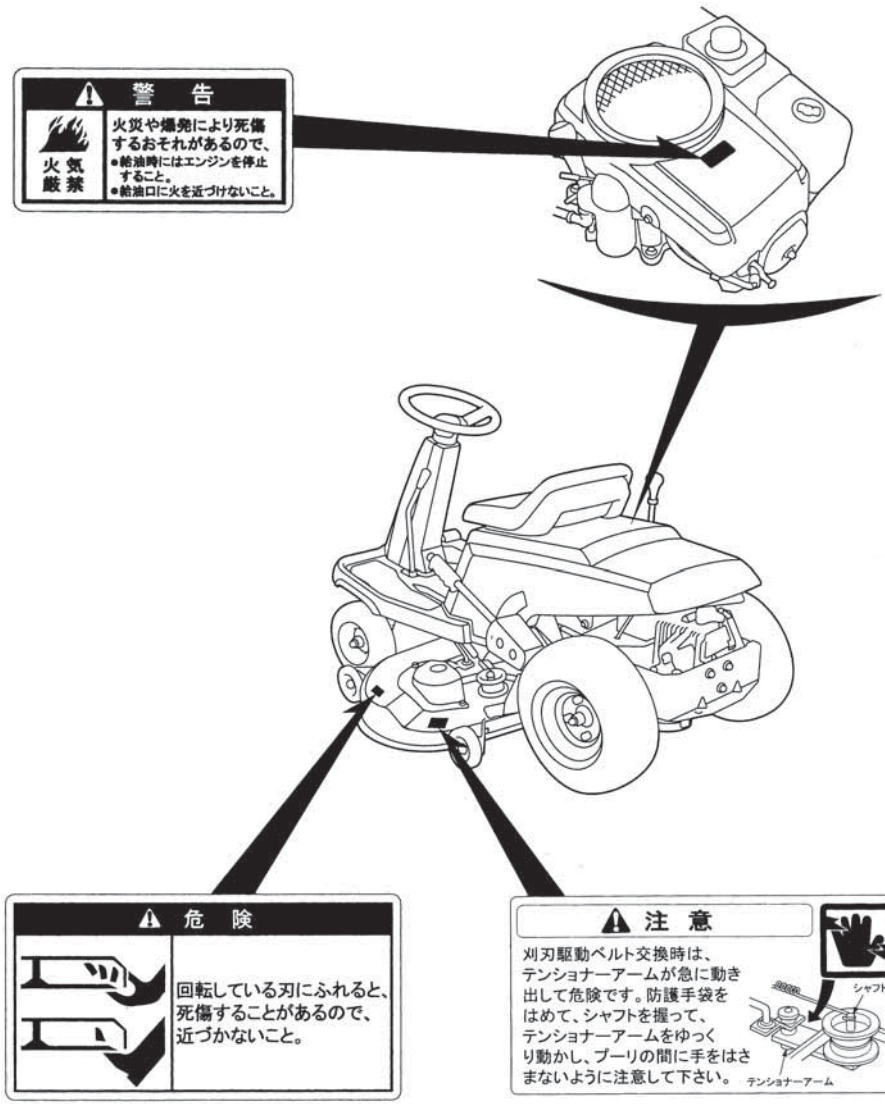
**●作業が終わったら**

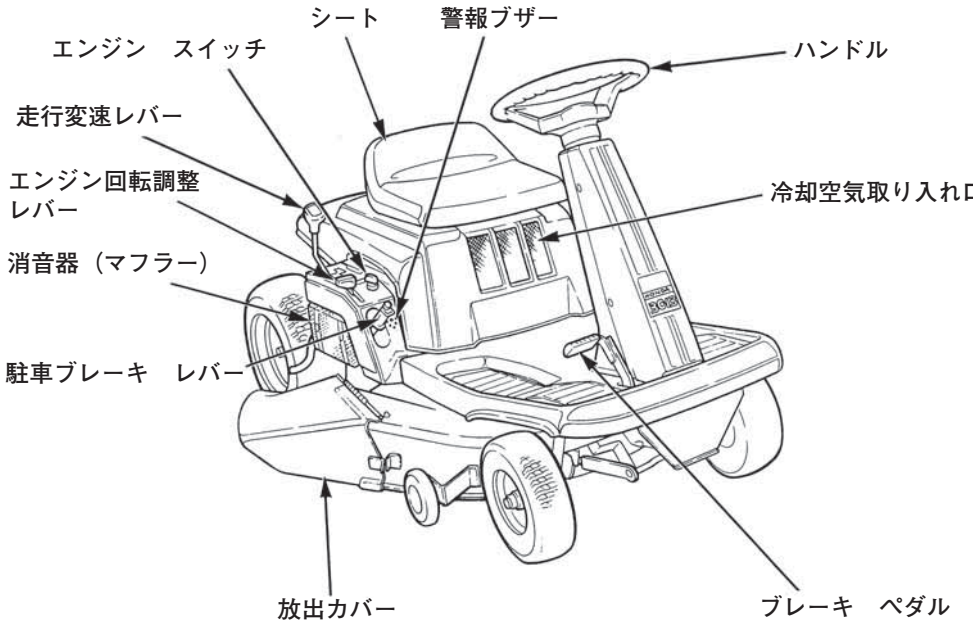
- 作業が終わり、本機を移動する場合は、刈刃を停止させ、刈取り高さを最も高い位置にしてください。
  収納袋（別売部品）の刈取った芝は、早めに適切に処理してください。袋に入れたまま放置すると、湿った芝または腐った芝は熱を発生させ火災の原因になります。
- 各部の点検・調整・清掃を行うときは、誤ってエンジン始動しないように、エンジン　スイッチ　キーを外し、エンジン各部が十分に冷えてから行ってください。
- 格納する場合は、エンジン各部が十分冷えてから、近くに燃えやすい物がない平坦な場所に、駐車ブレーキをかけて格納しエンジン　スイッチ　キーを外してください。
- 長期保管前には、燃料タンク内の燃料を抜取り本機を火気のないところに保管してください。また抜いた燃料は引火しやすく、火災や爆発の危険があります。所定の燃料タンクなどに入れ、保管してください。
- 車への積み降ろしをするときは、必ずアユミ板を使用しゆっくり行ってください。転倒落下によりケガをするおそれがあります。
- 運搬時には、転倒や落下しないように確実に固定してください。また燃料タンクとキャブレータの燃料を抜いてください。

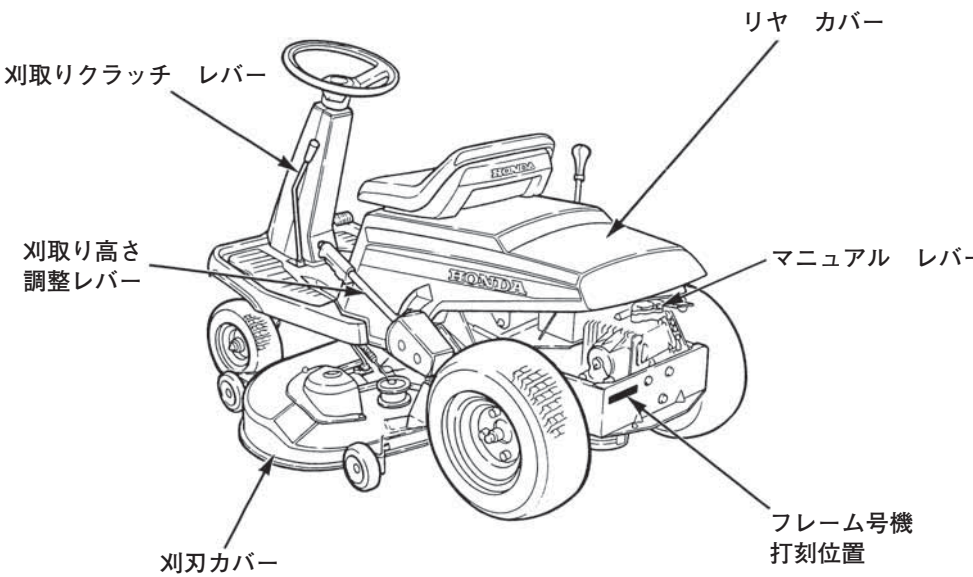
## ●安全ラベル

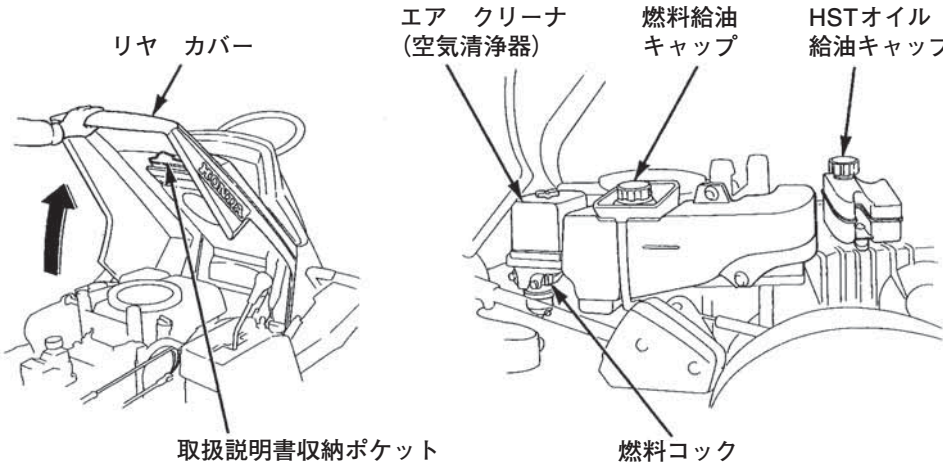
本機を安全に使用していただくため、本機には安全ラベルが貼ってあります。安全ラベルをすべて読んでからご使用ください。
ラベルははっきりと見えるようにきれいにしておいてください。
本機に貼ってあるラベルが汚れ、破れ、紛失などで読めなくなってしまったときは新しいラベルに貼り替えてください。また安全ラベルが貼られている部品を交換する場合はラベルも新しい物を貼ってください。安全ラベルはお買いあげ販売店にご注文ください。

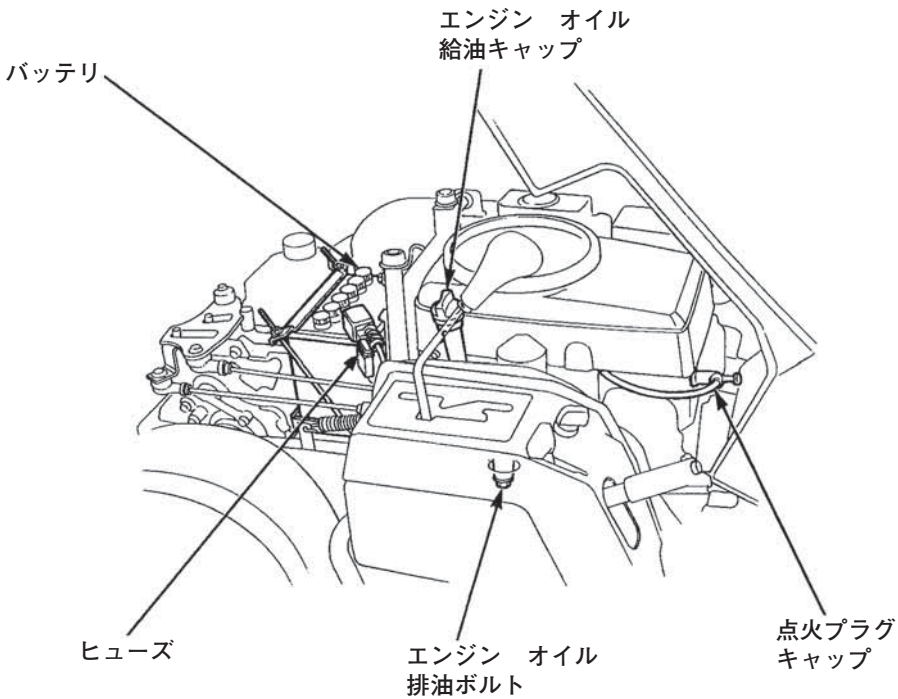



警　告
火気厳禁
火災や爆発により死傷するおそれがあるので、
●給油時にはエンジンを停止すること。
●給油口に火を近づけないこと。
危　険
回転している刃にふれると、死傷することがあるので、近づかないこと。
注　意
刈刃駆動ベルト交換時は、テンショナーアームが急に動き出して危険です。防護手袋をはめて、シャフトを握って、テンショナーアームをゆっくり動かし、プーリの間に手をはさまないように注意して下さい。
シャフト
テンショナーアーム


シート
警報ブザー
エンジン　スイッチ
ハンドル
走行変速レバー
エンジン回転調整
レバー
冷却空気取り入れ口
消音器（マフラー）
駐車ブレーキ　レバー
放出カバー
ブレーキ　ペダル

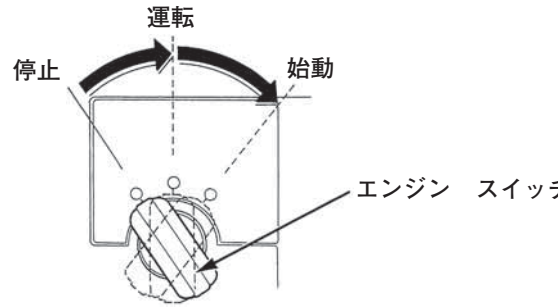

リヤ　カバー
刈取りクラッチ　レバー
刈取り高さ
調整レバー
マニュアル　レバー
フレーム号機
打刻位置
刈刃カバー


リヤ　カバー
エア　クリーナ
（空気清浄器）
燃料給油
キャップ
HSTオイル
給油キャップ
取扱説明書収納ポケット
燃料コック


エンジン　オイル
給油キャップ
バッテリ
ヒューズ
エンジン　オイル
排油ボルト
点火プラグ
キャップ

## エンジン　スイッチ

エンジンを＂**始動**＂、＂**運転**＂、＂**停止**＂するときに操作します。

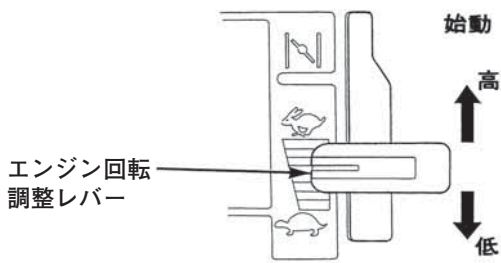



- 駐車ブレーキレバーを引いているとき、またはシートに着座しているときに走行変速レバーが＂**N**＂（中立）、刈刃クラッチ　レバーが＂**切**＂の位置以外では、スタータ　モータは回転しない構造になっています。

## エンジン回転調整レバー

エンジン回転を調整するものです。＂**低**＂から＂**高**＂までのエンジン回転を操作します。エンジン始動時は＂**始動（チョーク）**＂の位置にしてください。

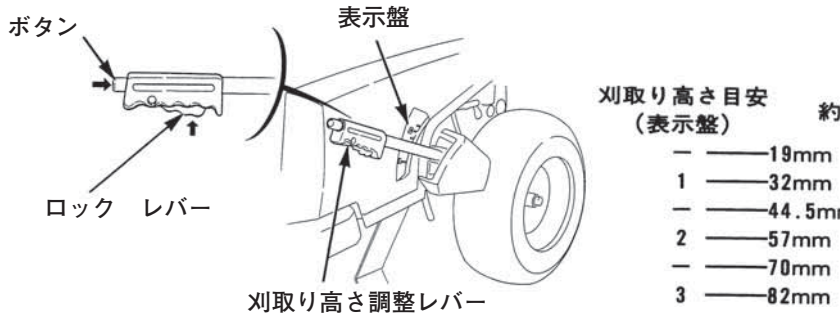
- エンジン始動時にエンジンが暖まっている場合、または気温が高いときには、エンジン回転調整レバーを＂**低**＂の位置にしてください。



## 刈取り高さ調整レバー

刈取り高さを調整するときに操作します。レバーの位置を変えることによって6段階に刈取り高さを調整することができます。

ロック　レバーを握り、少し持ちあげながらレバー先端のボタンを押すとレバーが動きます。レバーを支えて上下させ、作業に適した位置に合わせ、ボタンから手をはなすとレバーが固定されます。



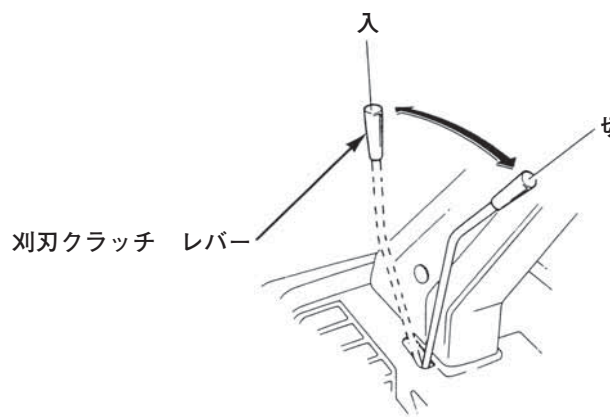

- 実際の刈取り高さは、芝の種類や芝地などの条件により上記数値と異なる場合があります。
- 芝刈り区域に乗り入れるときや出るときには刈取り高さ調整レバーをいっぱいに引いて刈刃カバーをいちばん高い位置にしてください。また後進するときも刈刃カバーをいちばん高い位置にしてください。

## 刈刃クラッチ　レバー

刈刃を駆動、停止させるときに操作します。

レバー位置 **"入"** …… 刈刃が回転します。

**"切"** …… 刈刃が停止します。



## 走行変速レバー

本機を前進、後進するときに使用します。

このレバーで芝刈機の前進、後進の速度を無段階に変える事ができます。

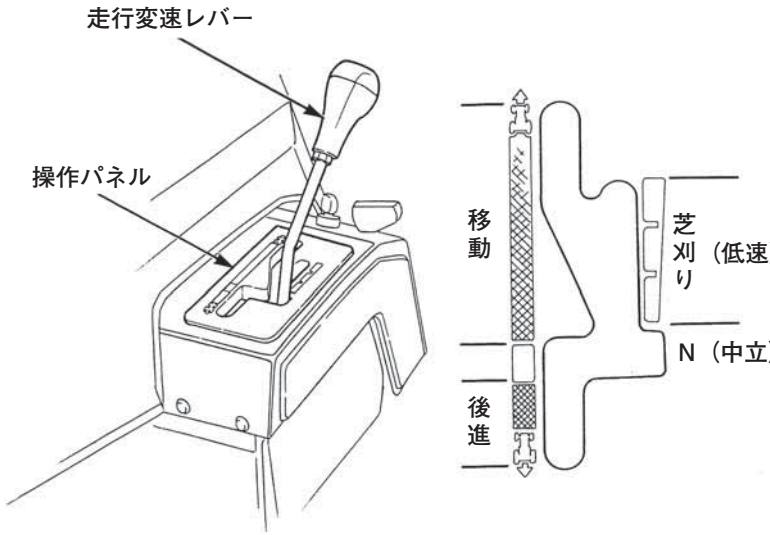
前進するときは …… "N"（中立）の位置から前方へ徐々に移動します。

後進するときは …… "N"（中立）の位置から後方へ徐々に移動します。

芝刈り作業は、走行変速レバー操作パネルの右側のラベル"**芝刈り**"（低速）の範囲でご使用ください。

その他は、移動用としてご使用ください。

- 走行変速レバーは、ブレーキ　ペダルと連動する構造になっています。ブレーキ　ペダルをいっぱいに踏み込むことにより、走行変速レバーが"N"（中立）の位置に戻り、本機は停止します。




**取扱いのポイント**

**走行中は前進から後進、または後進から前進への切換え操作を行わないでください。動力伝達機構を破損する原因になります。切換え操作は、本機が完全に停止してから行ってください。**

## ブレーキ　ペダル

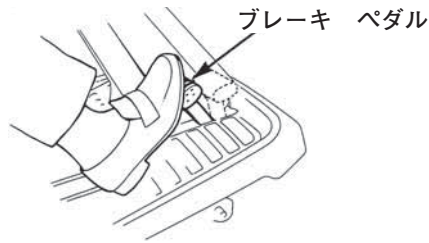
本機を停止するときに使用します。
ブレーキ　ペダルを踏むと走行変速レバーは、自動的に"N"（中立）の位置方向へ戻ります。

ペダルをいっぱいに踏み込むと … ブレーキが効き、走行変速レバーが"N"（中立）の位置に戻り、本機が停止します。

ペダルを軽く踏み途中で止めると … ブレーキが効き、走行変速レバーが"N"（中立）の位置方向に戻り、本機は減速しますが走行を続けます。

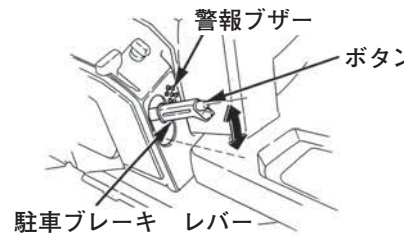
**取扱いのポイント**

**ブレーキペダルを軽く踏んだ状態で走行を続けないでください。ブレーキの引きずりにより、ブレーキ系統の故障の原因になります。ブレーキペダルから足をはなして走行するか、ブレーキ　ペダルをいっぱいに踏み込んで本機を停止させてください。**




## 駐車ブレーキ　レバー

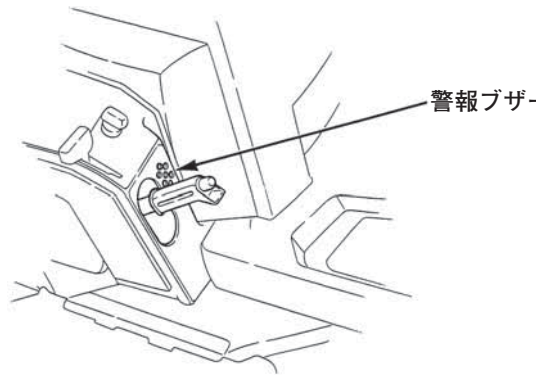
芝刈機を駐車するときに使用します。
レバーをいっぱいに引き上げると固定されます。
解除するときは、レバーを軽く引き上げながらレバー先端のボタンを押し、レバーを下方に止まるまで下げます。




- 本機は平坦な場所に駐車してください。
- 駐車ブレーキをかけるときには、必ず走行変速レバーを"N"（中立）の位置にしてください。
- 駐車ブレーキをかけた状態で走行すると、警報ブザー（16頁参照）が鳴り数秒後にエンジンが停止します。

## 警報ブザー

警報ブザーは、ブレーキ装置の保護のため、駐車ブレーキ　レバーの戻し忘れを警報します。
駐車ブレーキ　レバーを引いたまま走行（走行変速レバーを"N"（中立）以外の位置）すると、ピーという連続音で警報し、数秒後にエンジンが停止します。




## 取扱説明書収納ポケット

日常の手引きとしてご使用いただくために、常に携帯してください。

## マニュアル　レバー

通常使用するときは、レバーを上側（緑マーク）にしておきます。
本機を手で押して移動する必要があるときには、レバー下側（赤マーク）にします。

**⚠警告**

**マニュアル　レバーの切換えは、平坦な場所で行ってください。傾斜地でレバーの切換えを行うと、本機が空走することがあり、思わぬ事故を引き起こすおそれがあります。**

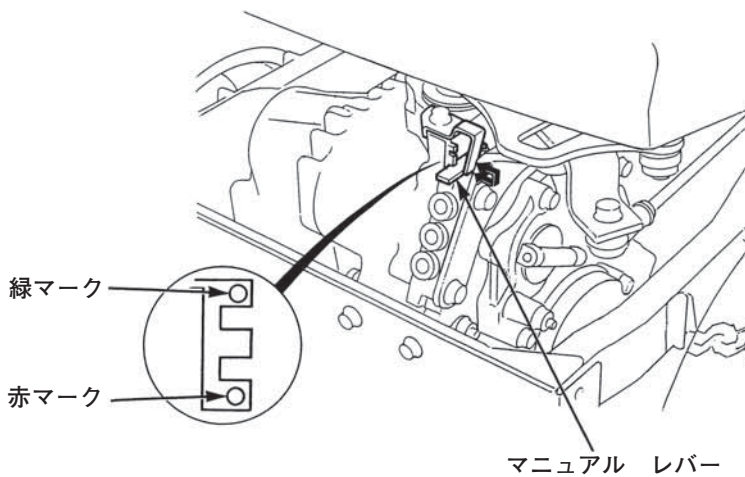
### レバーを切換えるときは

1. エンジンを止め、駐車ブレーキをかけます。
2. 走行変速レバーを＂N＂（中立）の位置にします。
3. マニュアル　レバーを下または上に動かし、レバーを溝に確実に入れます。

**⚠注意**

**本機は、芝刈り以外の目的で使用しないでください。本機で車両などをけん引したり、また他の車両で本機をけん引したりしないでください。変速機の故障の原因となるばかりでなく、思わぬ事故を引き起こすことがあります。**

**上側ー通常使用時（緑マーク）**
**上側ー手で押して移動するとき（赤マーク）**



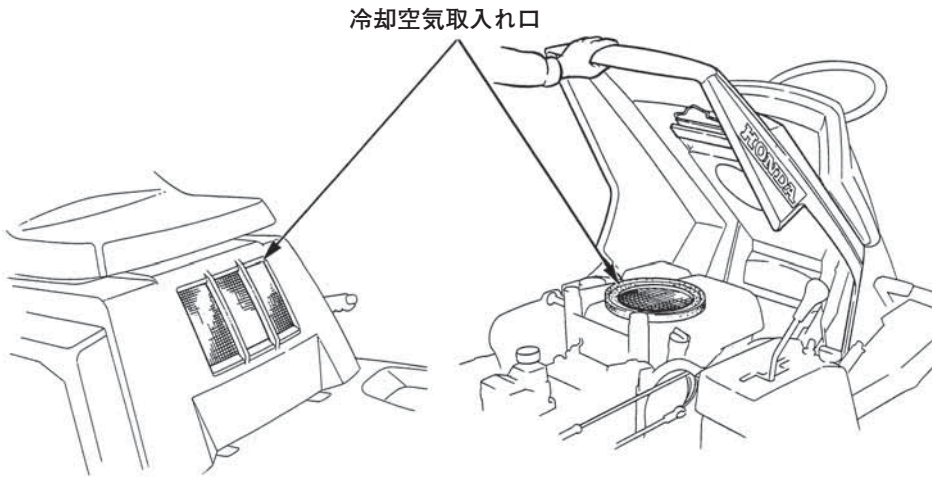
**⚠警告**

- **不安定な場所やエンジンを始動したまま点検を行うと思わぬ事故を引き起こすおそれがあります。**
- **点検は平坦な場所で本機を水平にして行ってください。**
- **点検前に必ずエンジンを停止し、駐車ブレーキをかけ、エンジン　スイッチ　キーを外してください。**

いつも安心して使用するためには日常の点検整備が必要です。忘れずに行ってください。

## 冷却空気取入れ口の点検

エンジンに冷却空気が十分入るように冷却空気取入れ口についた芝やゴミを取り除いてください。

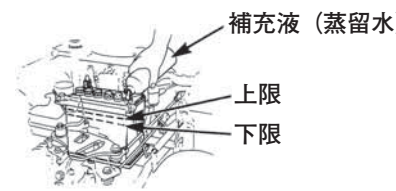



## バッテリ液の点検

バッテリの液面が各槽とも**上限**（UPPER・LEVEL）と**下限**（LOWER・LEVEL）の間にあるか点検してください。
同時にキャップの通気孔のつまりを点検してください。

### 補給

少ないときはキャップを外し、バッテリ補充液（蒸留水）を**上限**（UPPER・LEVEL）まで補給します。



**端子の手入れ**

端子のゆるみ、腐食は接触不良の原因となります。ゆるんでいるときは、締めつけてください。端子に白い粉がついているときは、お湯で清掃し、接続後グリースを塗布してください。

**警告**

- **バッテリを取扱うときはショートによる火花や火気に注意してください。バッテリからは可燃性のガスが発生しているので爆発のおそれがあります。**
- **バッテリ液面が下限以下のままで使用または充電はしないでください。バッテリ液面が下限以下のままで使用または充電をするとバッテリの劣化を早めたり、破裂（爆発）の原因となるおそれがあります。破裂（爆発）の場合は、重大な傷害に至る可能性があります。**
- **バッテリの結線は正確に行ってください。接続時は⊕側から接続し、外すときは⊖から外してください。工具の接触などでショートする場合があります。**
- **バッテリ液は希硫酸です。目や皮膚に付くとその部分は侵されますので十分注意してください。万一、付着したときはすぐに多量の水で少なくとも15分以上洗浄し、専門医の診断を直ちに受けてください。**

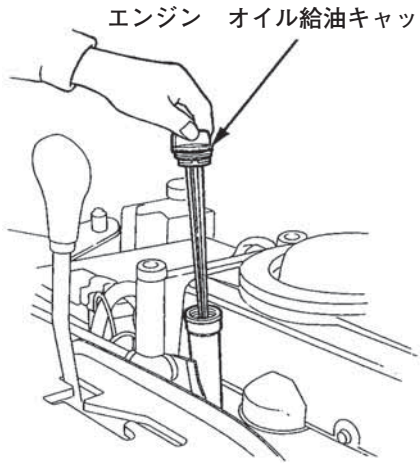
**取扱いのポイント**

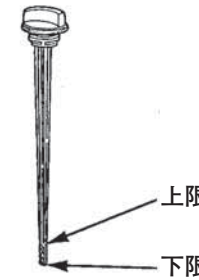
- **長時間使用しない場合には、バッテリの⊖端子を外しておいてください。長期間保管中は、6 か月に 1 度補充電を行ってください。**
- **バッテリ補充液（蒸留水）を入れすぎると電解液がこぼれ金属を腐食させる原因となります。上限（UPPER・LEVEL）以上入れないでください。万一バッテリ液をこぼしたときには、必ず水洗いをしてください。**

## エンジン　オイルの点検

### 点検

エンジン　オイル給油キャップ付近のほこりや芝くずを取除きエンジンオイル給油キャップを外し、キャップをねじこまず差し込んで点検します。油面が下限に近いときには、上限までオイルを補給してください。




### 補給

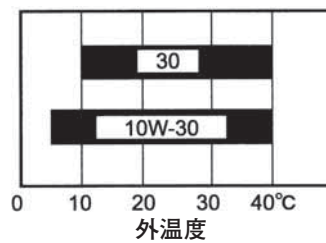
給油キャップを外し、新しいオイルを上限まで補給します。

推奨オイル：(4ストローク　ガソリン　エンジン　オイル)

Honda純正　ウルトラU汎用（SAE10W－30）

またはAPI分類SE級以上のSAE10W－30オイルをご使用ください。

エンジン　オイルは、外気温に応じた粘度のものを表にもとづきお使いください。




汚れや変色が著しい場合は交換してください。(交換時期、方法は42頁参照)

**取扱いのポイント**

**エンジン　オイル給油キャップは確実に締付けてください。締付けがゆるいとオイルが漏れることがあります。**

## 燃料の点検

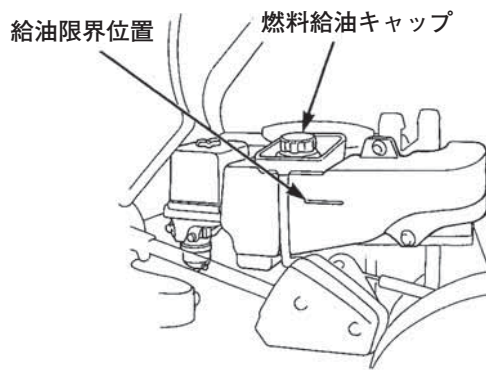
**⚠警告**

**ガソリンは非常に引火しやすく、また気化したガソリンは爆発して死傷事故を引き起こすおそれがあります。**
**ガソリンの補給は**

- **エンジンを停止してください。**
- **換気の良い場所で行ってください。**
- **火気を近づけないでください。**
- **身体に帯電した静電気を除去してから給油作業を行ってください。**
  **静電気の放電による火花により、気化したガソリンに引火しやけどを、負うおそれがあります。**
  **本機や給油機などの金属部分に触れると、静電気を放電することができます。**
- **ガソリンはこぼさないように補給してください。万一こぼれたときは布きれなどで完全にふきとってください。**
  **ガソリンをふきとった布きれなどは、火災と環境に十分に注意して処分してください。**
- **ガソリンは注入口の口元まで入れず所定の給油限界位置を越えないように補給してください。**
  **入れすぎると燃料給油キャップからガソリンがにじみ出ることがあります。**

**点検**

燃料給油キャップを外し、給油限界位置まで燃料があるか点検します。少ない場合は補給してください。



**補給**

使用燃料：自動車用無鉛レギュラーガソリン

**タンク容量：2.5ℓ**

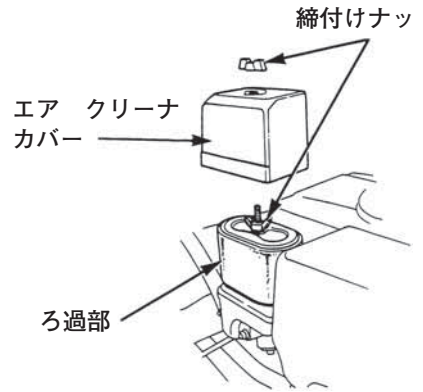
- 燃料給油キャップを外し、給油口の給油限界位置を超えないように補給してください。
- 補給後、給油キャップを確実に締付けてください。

**取扱いのポイント**

- **必ず無鉛レギュラーガソリンを補給してください。高濃度アルコール含有燃料を補給すると、エンジンや燃料系などを損傷する原因となります。**
- **軽油、灯油や粗悪ガソリンなどを補給したり、不適切な燃料添加剤を使うと、エンジンなどに悪影響をあたえます。**

## エア　クリーナ（空気清浄器）の点検

1. リヤ　カバーを開けてください。
2. 締付けナットを外し、エア　クリーナ　カバーを取外します。
3. ろ過部（ウレタン、紙）の汚れを点検します。
4. 汚れがひどい場合は、ろ過部の清掃を行ってください。
   （清掃方法は44頁参照）

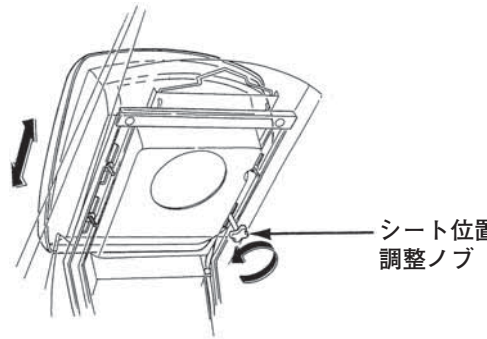



**取扱いのポイント**

- **エア　クリーナ　カバーの締付けは確実に行ってください。締付けが悪いと振動でカバーが外れることがあります。**
- **エア　クリーナ　カバーやろ過部（ウレタン、紙）を装着しなかったり、取付け方が悪いと、エンジンに悪影響を与える原因になります。**

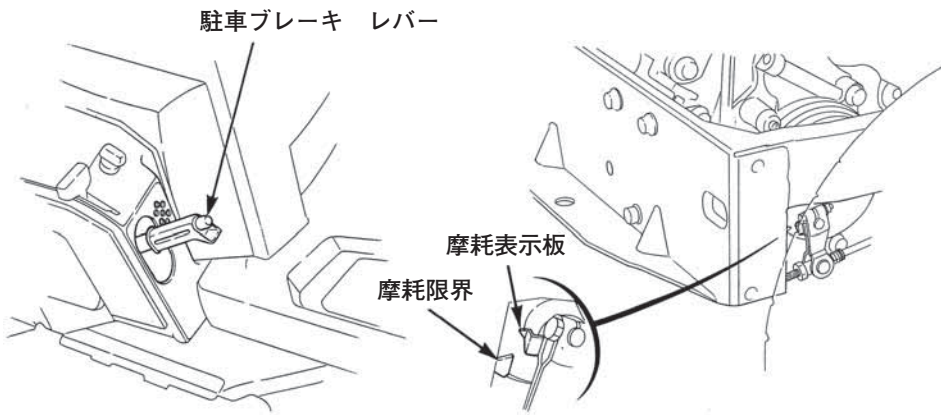
## シートの位置調整

1. リヤ　カバーを開けます。
2. シート位置調整ノブをゆるめます。
3. 運転者に適した位置にシートを動かします。
4. シート位置調整ノブを確実に締付けます。




## ブレーキ　ライニングの点検

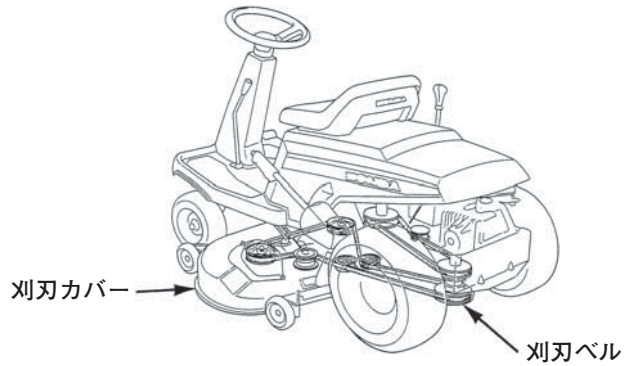
ブレーキ　ライニングの状態を摩耗表示板で確認してください。
駐車ブレーキをかけて、ブレーキ摩耗表示板の位置を点検します。摩耗表示板が摩耗限界に近いときには、お買いあげ販売店へお申し付けください。



## 刈刃ベルトの点検

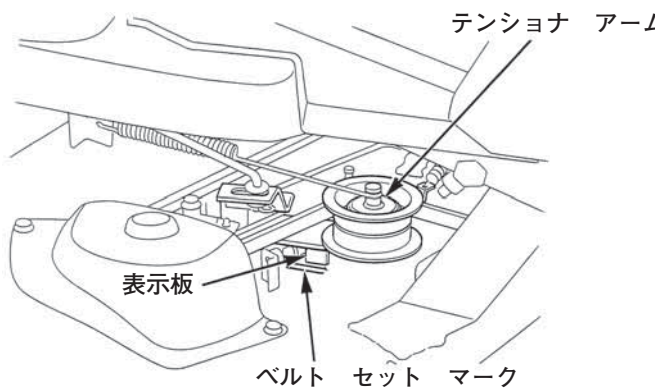
### 摩耗、損傷の点検

1. 刈刃クラッチ　レバーを**"切"**の位置にしてください。
2. 刈取り高さ調整レバーで刈刃カバーをいちばん下の位置にしてください。
3. 刈刃ベルトの摩耗、損傷を点検してください。もしベルトが摩耗、損傷していたら50頁の交換要領に従ってベルトを交換してください。




## 刈刃ベルトの張り点検

1. 刈刃クラッチ　レバーを**"入"**の位置にしてください。
2. 刈取り高さ調整レバーで刈刃カバーをいちばん下の位置にしてください。
3. 刈刃カバー上のベルト　セット　マークとテンショナ　アームの表示板の位置を目視で点検してください。表示板がベルト　セット　マークの間にないときは、50頁の調整要領に従って、刈刃ベルトの張りを調整してください。

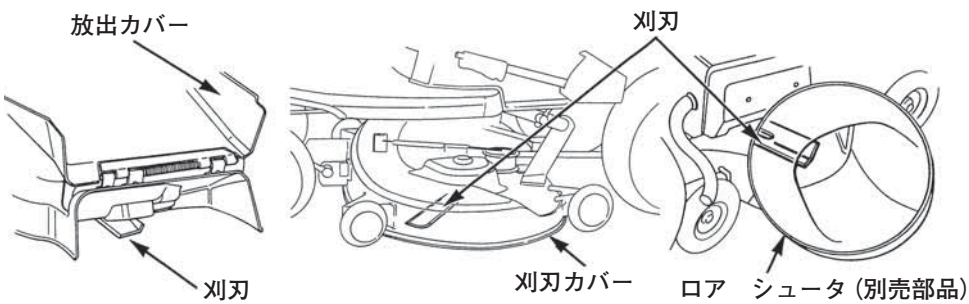


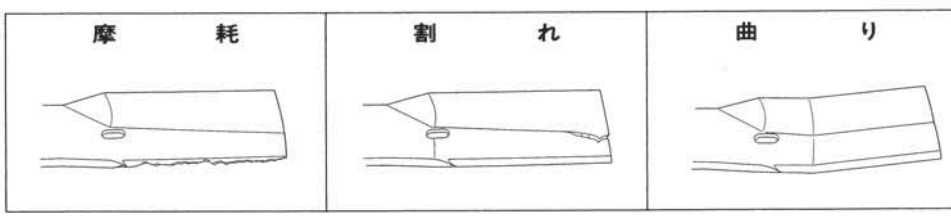
## 刈刃の点検

**⚠警告**

- **作業を安全に行うために、刈刃の作業前点検を行ってください。刈刃のゆるみ、摩耗、割れ、曲がりなどを放置すると、刈刃が折損して飛び出し、作業者や付近にいる人に当たるなどして重大な人身事故を招くおそれがあります。**
- **刈刃の点検をするときは、エンジンを停止し点火プラグ　キャップを外してから厚手の手袋を着用して行ってください。刈刃でケガをするおそれがあります。**

1. エンジン　スイッチ　キーを抜き、駐車ブレーキ　レバーが確実に引かれていることを確認してください。次に点火プラグ　キャップを外します。
2. 刈取りクラッチ　レバーを**"切"**の位置にし、刈取り高さ調整レバーを最上段の位置にします。
3. 放出カバーを持ち上げて、目視で刈刃の状態を点検します。
   刈刃を半周回して、反対側を点検します。
   (別売部品の芝収納キットを御使用の場合は、ロア　シュータからのぞいて点検してください。)



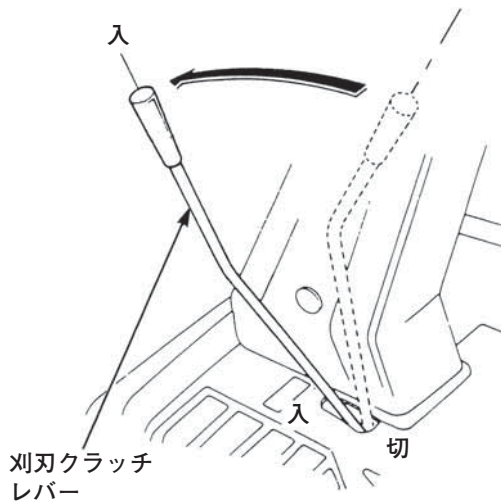




刈刃に異常が認められた場合は 53 頁の手順に従ってもう一度点検を行ってください。

## 刈刃クラッチ　レバー　スイッチ・走行変速レバー　スイッチの点検

### ● 刈刃クラッチ　レバー　スイッチの点検

1. シートにすわり、駐車ブレーキ　レバーを"**駐車**"の位置にしてください。
2. 走行変速レバーを"**N**"（中立）の位置にして、刈刃クラッチ　レバーを"**入**"の位置にします。
3. エンジン　スイッチを"**始動**"の位置にして、スタータが回らないことを確認します。
4. エンジン　スイッチを"**停止**"の位置にして、刈刃クラッチ　レバーを"**切**"の位置に戻します。



● **走行変速レバー　スイッチの点検**

1. シートにすわり、駐車ブレーキ　レバーを"**駐車**"の位置にしてください。
2. 刈刃クラッチ　レバーを"**切**"の状態で、走行変速レバーを前方へ（"**N**"－中立以外）少し移動します。
3. エンジン　スイッチを"**始動**"の位置にして、スタータが回らないことを確認します。
4. エンジン　スイッチを"**停止**"の位置にして、走行変速レバーを"**N**"（中立）の位置に戻します。

スイッチの点検で異常があった場合は、お買いあげ販売店にお申しつけください。

シート　スイッチの点検、駐車ブレーキ　システムの点検は、エンジンを始動して行います。エンジンのかけかた（33～35頁参照）、芝刈機のとめかた（40頁参照）を事前にお読みいただいたうえで点検を行ってください。

## シート　スイッチの点検

**⚠警告**

- **点検は平坦な場所で周囲の安全に十分注意して行ってください。**
- **点検時は、刈刃カバーを最上段の位置にして、刈刃カバー付近には異物がないことを確認してください。**

作業中シートから体が離れると自動的にエンジンが停止する構造になっています。

－1. エンジンを始動し、エンジン回転調整レバーを**"低"**の位置にしてください。

－2. 駐車ブレーキを解除して、シートから腰を上げてください。
エンジンが停止することを確認してください。

－3. 駐車ブレーキをかけて、エンジン　スイッチを**"停止"**の位置にしてください。

## 駐車ブレーキ　システムの点検

1. 駐車ブレーキを**"駐車"**にし、エンジンを始動します。
2. 走行変速レバーを**"N"**（中立）の位置（右）から左のプレートに当たるまで移動します。
   この時点で、警報ブザーが鳴り続け、数秒後にエンジンが停止する事を確認してください。
3. 走行変速レバーを**"N"**（中立）の位置に戻し、エンジン　スイッチを**"停止"**にします。

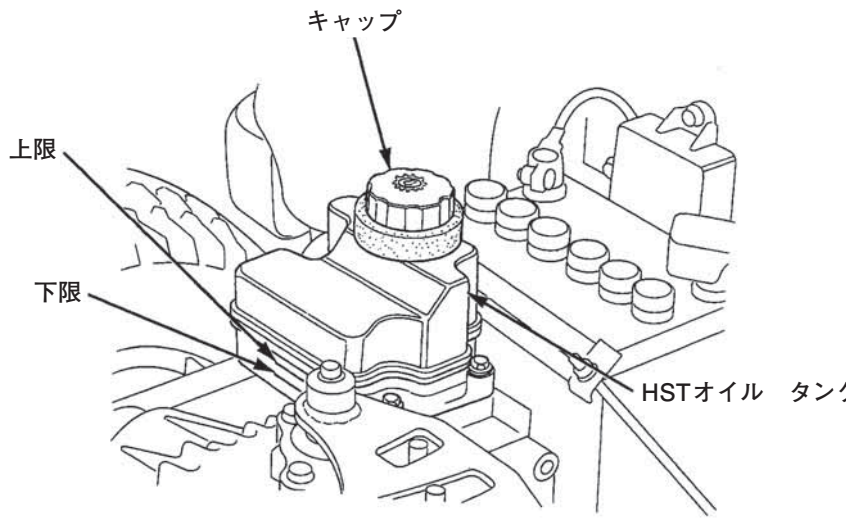
スイッチの点検で異常があった場合は、お買いあげ販売店にお申しつけください。

## HST（変速機）オイルの点検

1. リヤ　カバーを開けます。
2. HSTオイル　タンクの"**上限**"と"**下限**"の間にオイルがあるかどうか確認します。
   - HSTオイルの点検は、本機が冷えているときに行ってください。

### 補　給

1. 少ない場合はキャップを外し、新しいHSTオイルを上限まで補給します。
2. 補給後、確実にキャップを取付けます。
   **指定オイル：Honda純正H ー HSTオイル**



## タイヤ空気圧の点検

タイヤ　ゲージでタイヤの空気圧を点検してください。

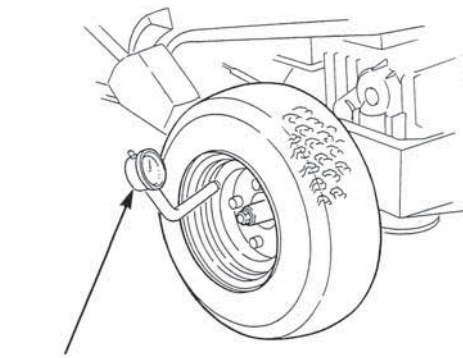
空気圧：前輪 … 98kPa（1.0kgf/cm$^2$）

　　後輪 … 67kPa（0.7kgf/cm$^2$）

空気圧が高すぎたり、低すぎたりしている場合は、規定の空気圧にしてください。

**取扱いのポイント**

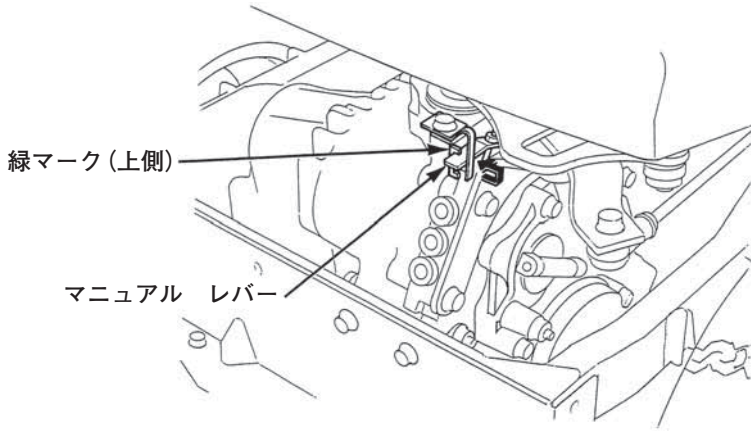
**タイヤの空気圧は、規定圧にして使用してください。規定圧以外で使用するとタイヤの摩耗を早めるばかりでなく、正しく芝刈り作業ができない原因にもなります。**



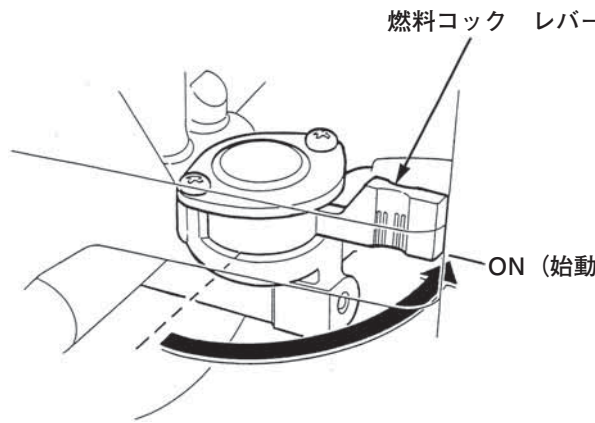
**⚠警告**

**屋内や換気の悪い場所では、エンジンをかけないでください。有害な一酸化炭素がたまってガス中毒を引き起こすおそれがあります。**

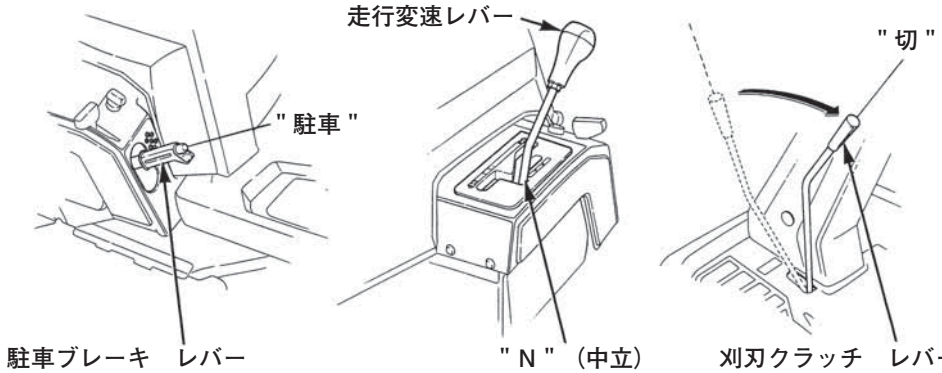
1. マニュアル　レバーを上側 " **緑** " マーク（通常使用）にします。



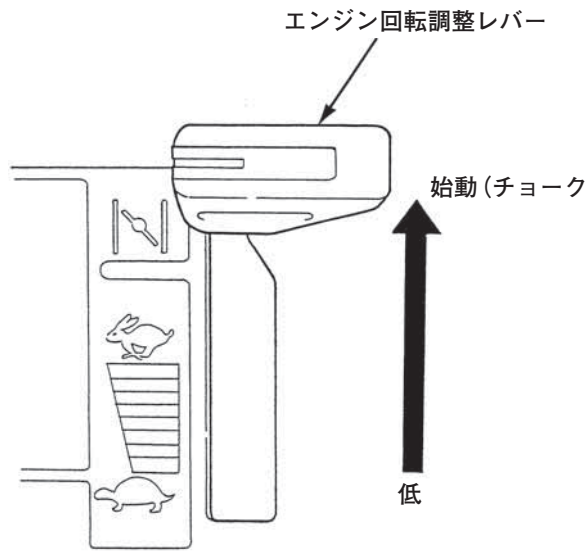

2. リヤ　カバーを開け、燃料コックを " **ON** " （始動）の位置にしてリヤカバーを閉じてください。



3. シートにすわり駐車ブレーキが **" 駐車 "** 走行変速レバーが **" N "**（中立）、刈刃クラッチ　レバーが **" 切 "** の位置になっていることを確認してください。



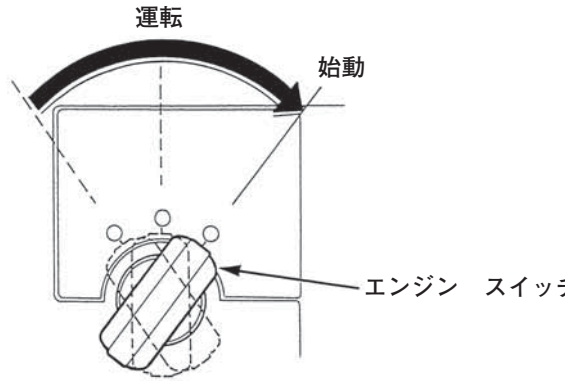

4. エンジン回転調整レバーを **" 始動 "**（チョーク）の位置にしてください。
   - エンジンが暖まっているとき、または気温が高いときには、エンジン回転調整レバーを **" 低 "** の位置にしてください。



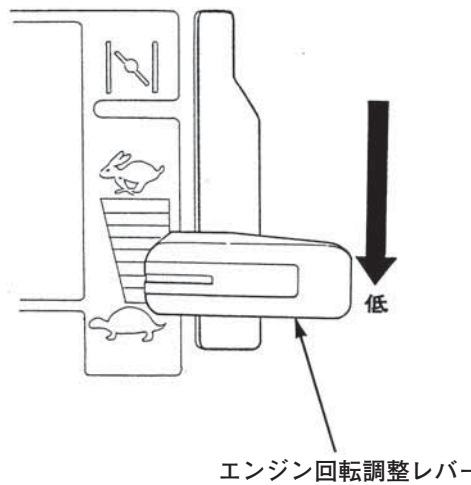
5. エンジン　スイッチを **" 始動 "** の位置まで回し、スタータをまわします。エンジンが始動したらスイッチから手を離します。自動的に **" 運転 "** の位置に戻ります。

**取扱いのポイント**

**スタータを回して5秒以内でエンジンが始動しないときは、10秒ほど間をおいてから再始動してください。**




6. 2～3分間暖機運転を行います。チョーク　レバーを **" 始動 "** にしたときは、エンジンの回転が安定していることを確認しながら、エンジン回転調整レバーを徐々に戻して、**" 低 "** の位置にしてください。



**芝刈り作業をする前に必ず " 安全にお使いいただくためにこれだけはぜひ守りましょう。" の項目を良くお読みになり芝刈り作業にとりかかってください。**

**⚠警告**

- **エンジンが始動しているときは、刈刃カバーに手や足を近づけないでください。刈刃は鋭くとがっていて高速で回転しています。誤って接触すると大ケガをします。**
- **旋回するときは、速度を落としてください。高速で急旋回すると、本機が転倒し、大ケガをするおそれがあります。**

**取扱いのポイント**

**使用中に音、におい、振動などで異常を感じたら直ちにエンジンを停止し、お買いあげ販売店にお問い合わせください。**

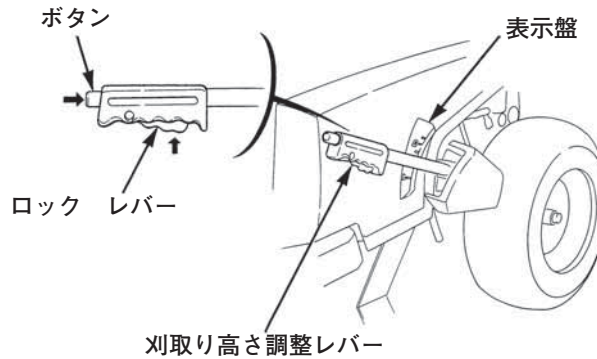
**上手な芝の刈り方**

- 長い芝を刈るときは、刈取り高さを高くして十分車速を落して行ってください。その後、刈取り高さを刈取りたい高さに調整して再度行ってください。
- 雨天の場合など芝が濡れているときは、芝が刈刃カバーなどに詰まる場合がありきれいに刈取ることができません。乾いてから刈取ってください。
- 刈取り作業は、左回りで行ってください。
- きれいに仕上げるためには、同じ場所にタイヤの跡がつかないように定期的に刈り方を変えてください。
- 芝刈り作業中は、一定車速で作業してください。作業中に車速を変えると仕上りが悪くなります。

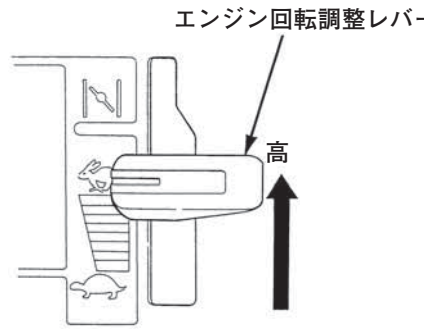
1. 駐車ブレーキ　レバーが"**駐車**"の位置にあることを確認し、刈取り高さを合わせてください。(13頁参照)

**取扱いのポイント**

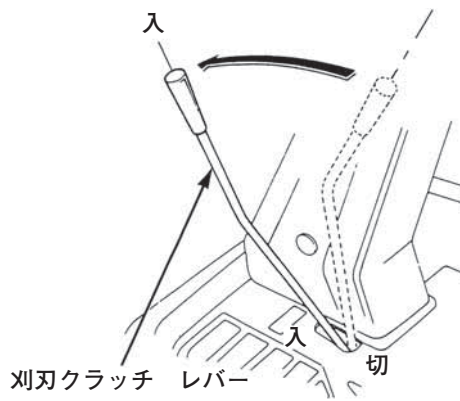
**刈取り高さ調整レバーが確実にセットされていることを確認してください。**




2. エンジン回転調整レバーを"**高**"の位置にしてください。

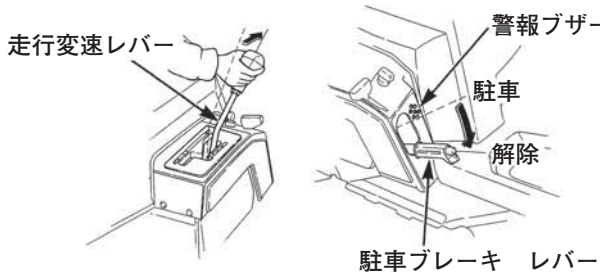



3. 刈刃クラッチ　レバーを"**入**"の位置にしてください。刈刃が回転します。



4. 走行変速レバーを"**N**"（中立）の位置から少し前方へ動かし、駐車ブレーキを解除すると本機が発進します。走行変速レバーを操作して、作業に適した車速にします。

●芝刈り作業は、走行変速レバー操作パネルの右側の"**芝刈り**"（低速）の範囲で行ってください。"**移動**"（高速）は、移動時に使用してください。




**取扱いのポイント**

**後進で芝刈り作業を行わないでください。本機の故障の原因になります。**

**⚠警告**

**●傾斜面の芝刈り作業は車速を落として上下方向に行ってください。また途中で変速、停止はしないでください。**

やむを得ず芝刈機を斜面に止め、上り坂発進する場合には次の手順に従ってください。

**⚠警告**

**傾斜面で誤った発進のしかたをすると、本機がすべり、横転する原因になります。傾斜面での発進は次の手順に従ってください。**

**傾斜面での発進手順**

－1. ブレーキ　ペダルをいっぱいに踏み込んでください。
－2. 駐車ブレーキを"**駐車**"の位置にしてください。
－3. ブレーキ　ペダルを離します。
－4. 走行変速レバーを"**芝刈り**"（低速）の位置にしてください。
－5. 駐車ブレーキを解除してください。
　●駐車ブレーキを解除するまで警報ブザーが鳴り続けます。解除しないとエンジンが数秒後に停止します。

5. 刈取りパターン

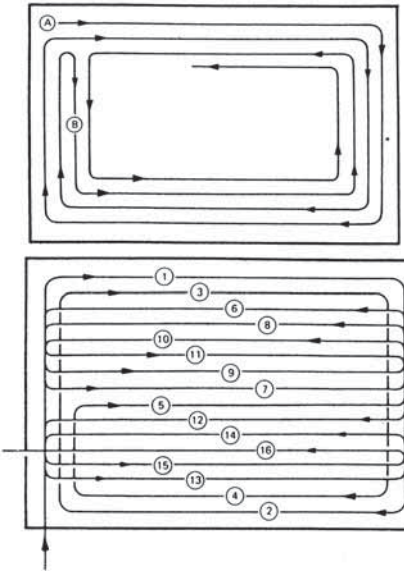
次のような刈り方をお勧めします。

5－1. 狭い場所での芝刈り作業

- Ⓐの様に右回りに2～3回芝刈りします。
  次にⒷの様に左回りに芝刈りします。

5－2. 広い場所での芝刈り作業

- ①～④の様に最初右回りに2～3回芝刈りします。
  次に中心部から上面半分を左回りに芝刈りします。
  下面半分も上面半分と同様左回りに芝刈りします。




- 段差のある乗り越しは、アユミ板など使用してください。刈刃クラッチレバーを**"切"**の位置にし、刈取り高さを最上位置にして直角に出入りし、十分注意してください。

**⚠警告**

**段差のある乗り越し、旋回時は、遅い車速で行ってください。高速での運転は、転倒事故などを引き起こすおそれがあります。**

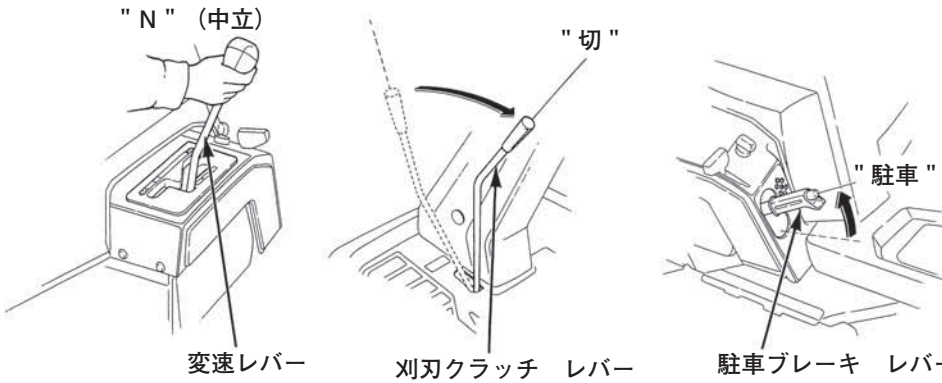
**取扱いのポイント**

- **本機が穴や溝に落ちたときは、エンジンを停止して本機を持ち上げて脱出してください。むやみな運転操作は、本機の故障の原因になります。**
- **作業範囲内の障害物（切り株、縁石、スプリンクラなど）は、作業前に確認して十分注意して行ってください。障害物への衝突は、本機の故障の原因になります。**

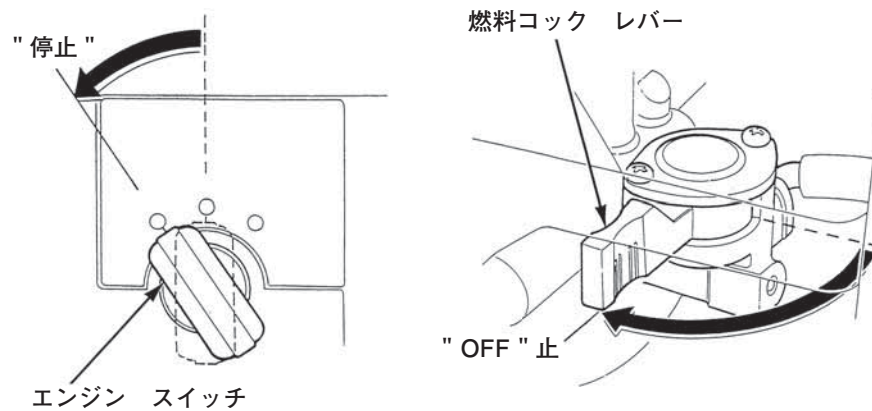
**⚠警告**

- **緊急に停止する場合は、エンジン　スイッチを " 停止 " の位置にしてください。**
- **本機から離れるときには、必ずエンジン　スイッチ　キーを外してください。**

1. 走行変速レバーを **" N "**（中立）の位置にしてください。
2. 刈刃クラッチ　レバーを **" 切 "** の位置にしてください。
3. ブレーキ　ペダルをいっぱいに踏み込み、駐車ブレーキ　レバーを **" 駐車 "** の位置にします。




4. エンジン　スイッチを **" 停止 "** の位置にしてください。
5. リヤ　カバーを上げ、燃料コック　レバーを **" OFF "**（止）の位置にしてください。



# 定　期　点　検　を　行　い　ま　し　ょ　う

お買いあげいただきましたHonda芝刈機をいつまでも安全で快適にお使いいただくために定期点検を行いましょう。

## 定期点検表

| 点検項目 ＼ 点検期間（3） | | 作業前点検 | 1か月目または初回20時間運転目 | 3か月毎または50時間運転毎 | 6か月毎または100時間運転毎 | 1年毎または200時間運転毎 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| エンジン　オイル | 点検 | ○ | | | | |
| | 交換 | | ○ | | ○ | |
| エア　クリーナ | 点検 | ○ | | | | |
| | 清掃 | | | ○（1） | | |
| 点火プラグ | 点検―調整 | | | | ○ | |
| | 交換 | | | | | ○ |
| アイドル回転 | 点検―調整 | | | | | ○（2） |
| スパーク　アレスタ | 清掃 | | | | ○ | |
| 吸入、排気弁のすき間 | 点検―調整 | | | | | ○（2） |
| 燃焼室 | 清掃 | 250時間運転後毎（2）（4） | | | | |
| 燃料タンク及びフィルタ | 清掃 | 1年毎（2） | | | | |
| 燃料チューブ | 点検 | 2年毎（必要なら交換）（2） | | | | |
| 刈刃ボルトの締付け | 点検 | | ○（2） | ○（2） | | |
| 刈刃ベルト | 点検 | ○ | | | | |
| | 調整 | | ○（2） | ○（2） | | |
| 走行駆動ベルト | 点検 | ○ | | | | |
| 刈刃の状態 | 点検 | ○ | | | | |
| 収納袋（別売り部品） | 清掃 | ○ | | | | |
| 駐車ブレーキ警報ブザーの作動 | 点検 | ○ | | | | |
| エンジン停止装置（シート　スイッチ）の作動 | 点検 | ○ | | | | |
| タイヤ空気圧 | 点検 | ○ | | | | |
| ブレーキの摩耗表示板 | 点検 | ○ | | | | |
| HST（変速機）オイル | 点検 | ○ | | | | |
| | 交換 | 5年または500時間運転毎（2） | | | | |
| バッテリー | 液量の点検 | ○ | | | | |
| | 液量及び比重の点検 | | | ○（2） | | |
| 駐車ブレーキ | 点検、調整 | | | ○ | | |
| 冷却空気取り入れ口 | 清掃 | ○ | | | | |
| 冷却フィン、シュラウド | 清掃 | 2年毎（必要なら交換）（2） | | | | |
| エンジン回転調整ケーブル | 点検、調整 | | | | ○（2） | |
| 前車軸グリース注入 | | 100時間運転毎（2） | | | | |
| ブレーキ及びボルト、ナット締付け | 点検 | | ○（2） | | ○（2） | |

（1）ホコリの多い所で使用した場合、エア　クリーナの清掃は10時間運転毎または1日1回行ってください。

（2）適切な工具と整備技術を必要としますので、お買いあげ販売店へお申しつけください。

（3）点検時期は表示の期間毎または運転時間毎のどちらか早い方で実施してください。

（4）表示時間を経過後すみやかに実施してください。

**⚠警告**

- **点検・整備は平坦な場所で駐車ブレーキ　レバーを"駐車"の位置にしてエンジンを停止して行ってください。誤ってエンジンが始動しないようにエンジン　スイッチ　キーを外して行ってください。**
- **屋内や換気の悪い場所では、エンジンをかけないでください。有害な一酸化炭素がたまってガス中毒を引き起こすおそれがあります。**

## エンジン　オイルの交換

エンジン　オイルが汚れていると摺動部や回転部の寿命を著しく縮めます。交換時期、オイル容量を守りましょう。

**⚠注意**

**エンジン停止直後は、エンジン本体やマフラーなどの温度、また油温が高くなっています。十分に冷えてからオイル交換を行ってください。やけどをするおそれがあります。**

**《交換時期》**

初回：1か月目または20時間運転目

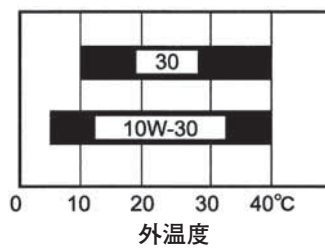
以後：6か月毎または100時間運転毎

**《推奨オイル》**（4ストローク　ガソリン　エンジン　オイル）

Honda純正　ウルトラU汎用（SAE10W－30）

またはAPI分類SE級以上のSAE10W－30オイルをご使用ください。

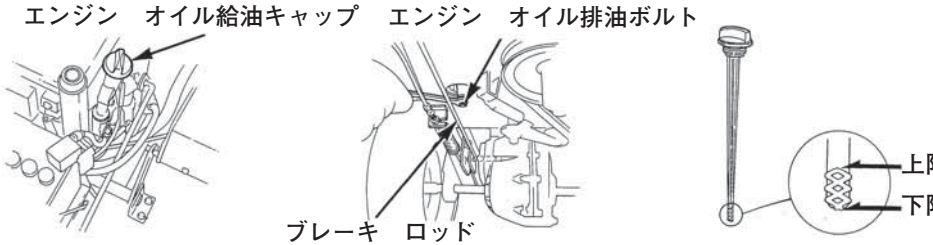
**エンジン　オイルは、外気温に応じた粘度のものを表にもとづきお使いください。**




**《規定量》**　　1.1 L

**《交換のしかた》**

1. 刈刃カバーを外してください。(47～48頁参照)
2. エンジン　オイル給油キャップ、エンジン　オイル排油ボルトを外して、オイルを抜いてください。
3. 排油ボルトを確実に締付けます。このときパッキンは新しい部品に交換してください。
4. 給油口より新しいオイルを上限まで注入します。
5. 注入後、エンジン　オイル給油キャップを確実に締付けます。




6. 刈刃カバーを取付けてください。

**取扱いのポイント**

- **交換後のエンジン　オイルはゴミの中や地面、排水溝などに捨てないでください。処理方法は法令で義務づけられています。法令に従い適正に処理してください。不明な場合はオイルをお買いあげになったお店にご相談の上、処理してください。**
- **オイルは、使用しなくても自然に劣化します。定期的に点検・交換をしてください。**
- **オイルを抜くときに、ブレーキ　ロッドやその周辺にオイルを付着させないようにしてください。付着した場合は、きれいに拭き取ってください。**
- **エンジン　オイル給油キャップは確実に締付けてください。締付けがゆるいとオイルが漏れることがあります。**

## エア　クリーナ（空気清浄器）の清掃

エア　クリーナが目詰りすると出力不足や燃料消費が多くなるので定期的に清掃してください。

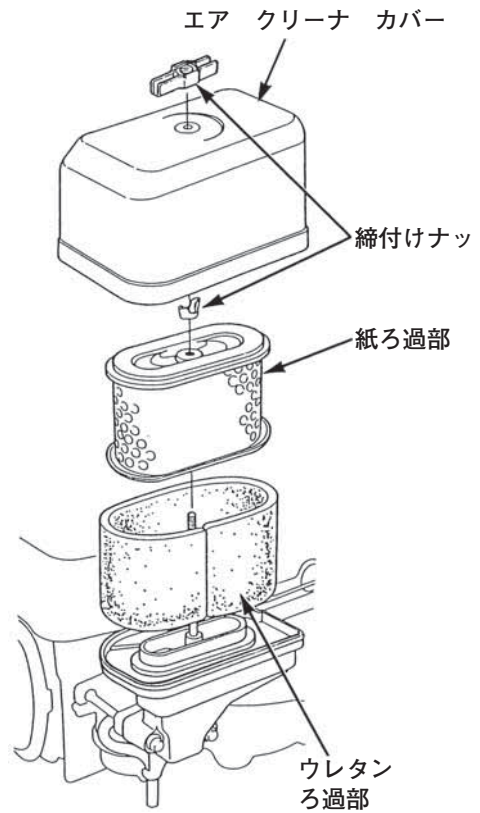
**《清掃時期》**

3か月毎または50時間運転毎

ホコリの多い場所で使用した場合は10時間運転毎または1日1回。

**《清掃のしかた》**

1. リヤ　カバーを外します。
2. 締付けナットを外して、エア　クリーナ　カバーを取外します。
3. ウレタンのろ過部は中性洗剤を水で薄めて洗い、更に水ですすいでから圧縮空気を吹きつけるかまたはよく絞って乾かしてください。
   次にきれいなエンジン　オイルに浸したあと、固く絞ってから取付けます。
4. 紙ろ過部は内側から圧縮空気を吹きかけるか、または軽く叩いて汚れを落します。汚れがひどい場合は交換してください。
5. 清掃後、ろ過部、エア　クリーナ　カバーを確実に取付け、締付けナットで固定してください。




**取扱いのポイント**

- **エア　クリーナ　カバーの締付けは確実に行ってください。締付けが悪いと振動でカバーが外れることがあります。**
- **エア　クリーナ　カバーやろ過部を装着しなかったり、取付け方が悪いと、エンジンに悪影響を与える原因になります。**

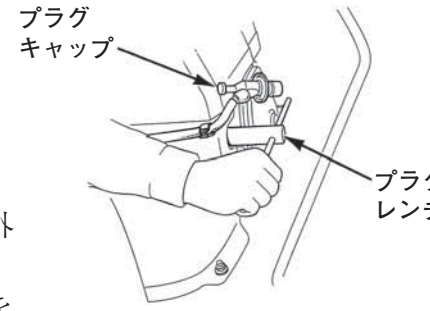
## 点火プラグの点検、調整、交換

電極が汚れたり、電極のすき間が不適当ですと、完全な火花が飛ばなくなりエンジン不調の原因になります。

**⚠注意**

**エンジン停止直後マフラや点火プラグなどは非常に熱くなっており、やけどをするおそれがあります。作業はエンジンが十分冷えてから行ってください。**

**《点検、調整時期》** 6か月毎または100時間運転毎
**《交換時期》** 1年毎または200時間運転毎
**《指定プラグ》**
BPR5ES（NGK）
W16EPR-U（DENSO）

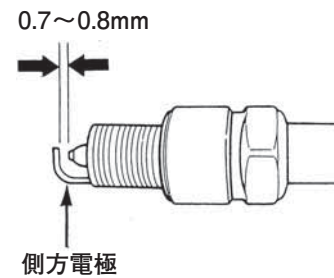



**清掃のしかた**

1. プラグ　キャップを外します。
2. プラグ　レンチで点火プラグを外し、清掃します。
3. プラグの清掃はプラグ　クリーナを使用するのが最も良い方法です。お買いあげ販売店をご利用ください。
   - プラグ　クリーナが無いときはワイヤ　ブラシで汚れを落としてください。

**調整のしかた**

4. 側方電極をつめ、火花すき間を0.7～0.8mmに調整します。




**取扱いのポイント**

- **故障の原因となるので指定以外のプラグを使用しないでください。プラグの取付けはネジ山を壊さないようにまず指で軽くねじ込み、次にプラグ　レンチで確実に締込んでください。**
- **点検調整後はプラグ　キャップを確実に取付けてください。確実に取付けないとエンジン不調の原因となります。**

## 車輪の取外し、取付け

**⚠注意**

**駐車ブレーキ　レバーを " 駐車 " の位置にし、タイヤの前後に輪止めをして本機を固定してください。**

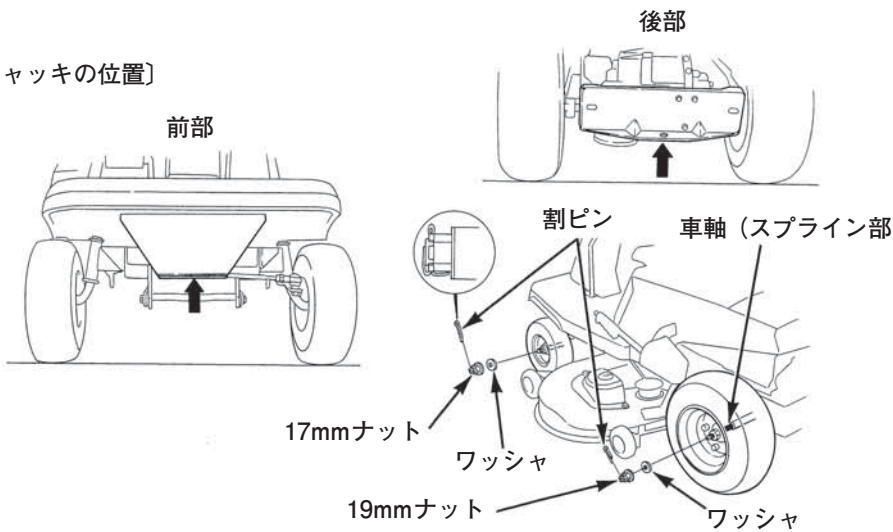
### 前輪

1. 割ピンを外し17mmナットを少し（約1回転）ゆるめます。
2. ジャッキで本機を持ち上げ、17mm ナットとワッシャを外し前輪を取外します。
3. 取付けは、取外しの逆の手順で行い、割ピンは必ず新品と交換し、下図のように折りまげてください。

### 後輪

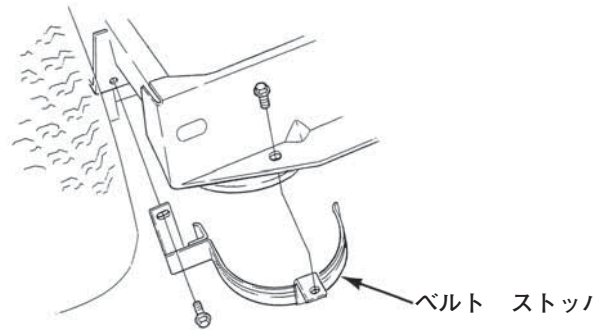
1. 割ピンを外し、19mmナットを少し（約1回転）ゆるめます。
2. ジャッキで本機を持ち上げ、19mm ナットとワッシャを外し、後輪を取外します。
3. 後輪を取付ける前に車軸（スプライン部）にうすくグリースを塗布してください。
4. 取付けは、取外しの逆の手順で行い、割ピンは必ず新品と交換し、下図のように折りまげてください。

〔ジャッキの位置〕

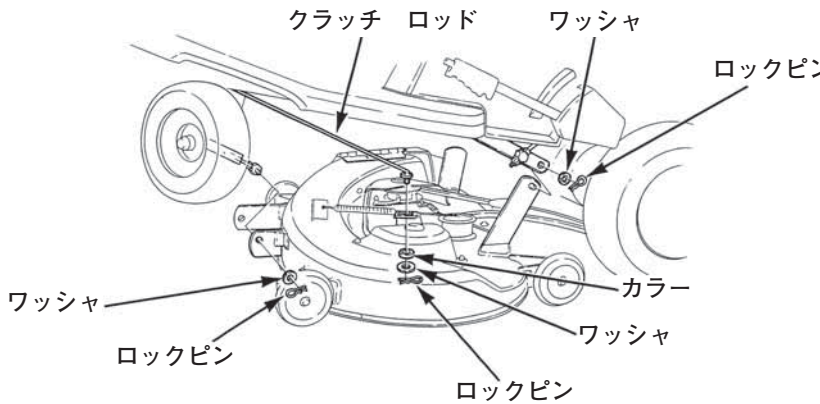


## 刈刃カバーの外しかた

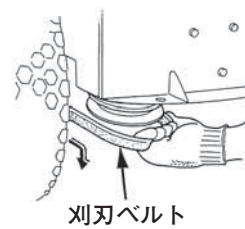
1. 刈刃クラッチ　レバーが"**切**"の位置になっていることを確認してください。刈取り高さ調整レバーをいちばん下にさげます。
2. ハンドルを左側にいっぱいに回し、ベルト　ストッパを外してください。



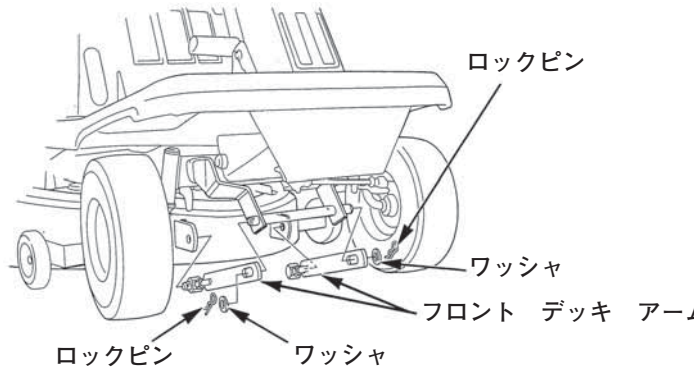

3. クラッチ　ロッドのロックピンとカラー、ワッシャを外し、クラッチロッドを刈刃カバーから外します。
4. 刈刃カバーに取付けられているロックピン4本(左右2本づつ)とワッシャを外します。




5. トランス　ミッションの下にあるドライブ　プーリから刈刃ベルトを外します。



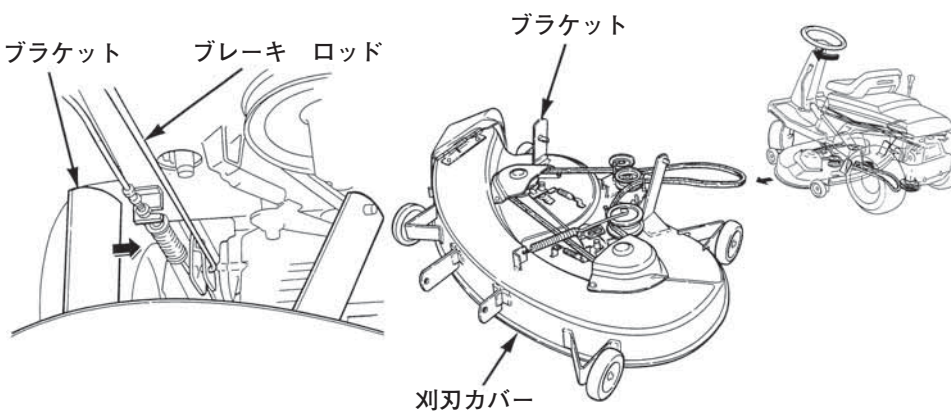
6. ロック　ピンとワッシャを外して左・右のフロント　デッキ　アームを外します。
●左・右のフロント　デッキ　アームは異なります。組付けるときに間違いのないように印をつけておいてください。



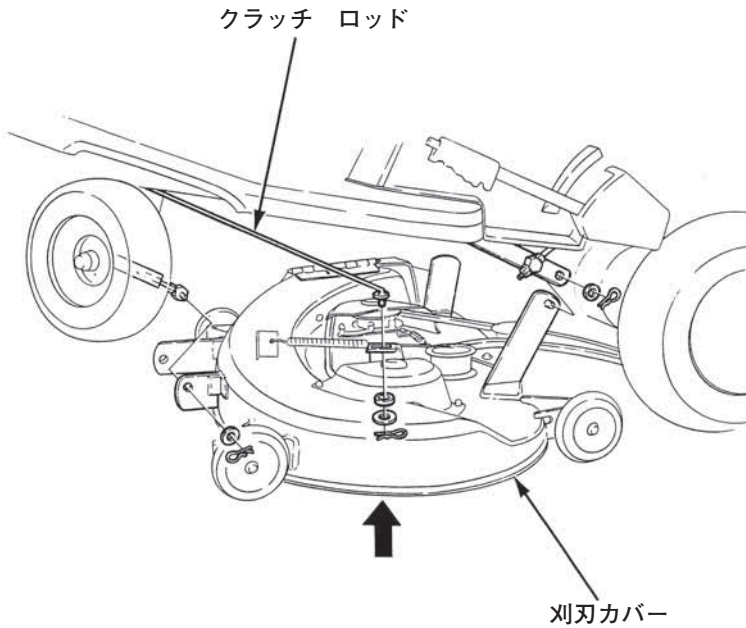

7. 刈取り高さ調整レバーを最上位にセットしてください。
8. ハンドルを右側いっぱいに回し、刈刃カバーを進行方向左側へ引き出します。

**取扱いのポイント**

**● 刈刃カバーを引き出すとき、カバーのブラケットがブレーキ　ロッドに当たらないように、ブレーキ　ロッドを少し手で押しあげてから引き出してください。他の部分にも当たらないように注意してください。**



9. 取付けは、取外し（47～48頁参照）の逆の方法で行ってください。



## 刈刃ベルトの調整、交換

**取扱いのポイント**

**刈刃の取外し、取付け、交換時の作業は適切な工具と整備技術をお持ちの方が実施してください。**

刈刃ベルトの調整が適切でないと、ベルトがスリップしたり、刈刃クラッチレバーが入らない場合があります。定期的に調整してください。

**⚠警告**

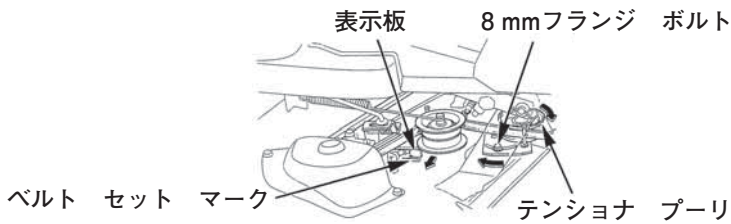
- **刈刃ベルトの調整、交換は平坦な場所で駐車ブレーキ　レバーを " 駐車 " の位置にしてエンジンを停止して行ってください。誤ってエンジンが始動しないようにエンジン　スイッチ　キーを外してください。**
- **刈刃に関する作業を行うときには、皮手袋など丈夫な手袋をして行ってください。**

**■ 調整**

1. ハンドルを直進状態にしてください。
2. 刈刃クラッチ　レバーを **" 入 "** の位置にしてください。
3. 刈取り高さ調整レバーで刈刃カバーをいちばん下の位置にしてください。
4. 8mm フランジ　ボルトをゆるめ、テンショナ　プーリを手前に引いて、テンショナ　アームの表示板が刈刃カバー上のベルト　セット　マークの位置になるように、ボルトを締付けてください。もし調整を行ってもテンショナ　アームの表示板がベルト　セット　マーク位置にならない場合は、新品のベルトと交換後、上記調整を行ってください。

**⚠注意**

**テンショナ　アームを動かすときは、皮手袋など丈夫な手袋をして手を挟まれないように注意して行ってください。アームはスプリングの力で急に動きます。**



■ **交換**

1. 刈刃カバーを外してください。(47～48頁参照)
2. 8mmボルト1本、8mmナット3個を外してプーリ　カバーを外します。
3. テンショナ　アームを入の方向へ動かします。

**⚠注意**

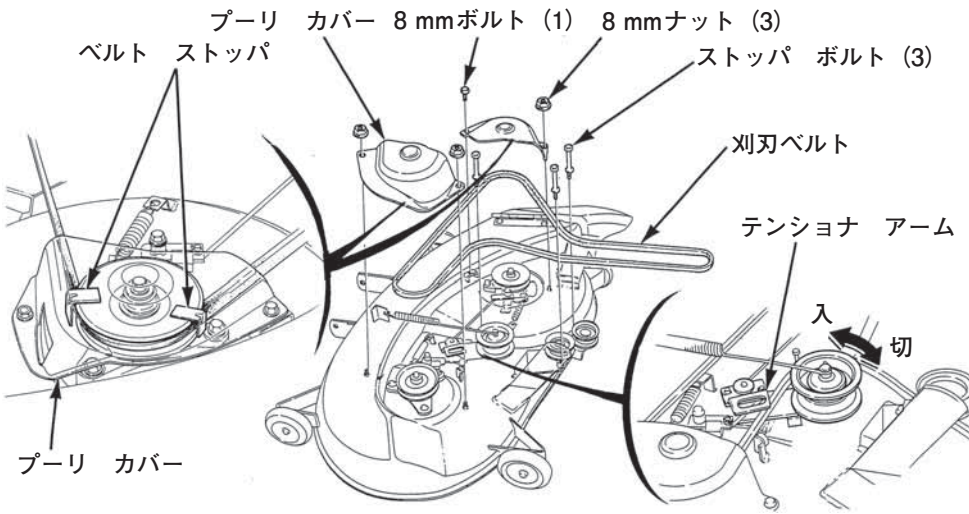
**テンショナ　アームを動かすときは、皮手袋など丈夫な手袋をして手を挟まれないように注意して行ってください。アームはスプリングの力で急に動きます。**

4. ストッパ　ボルト3本を外します。
5. 刈刃ベルトを外します。
6. 組付けは新しい刈刃ベルトを組付け、テンショナ　アームを切の方向へ動かしてから、ストッパ　ボルト、プーリ　カバーを取付けます。

**取扱いのポイント**

**プーリ　カバーにはベルト　ストッパが付いています。左右のプーリカバーを組付けるときは、ベルトがこのストッパの内側にくるようにベルトを引きながら組付けてください。**

7. 組付け後、刈刃ベルトの調整を行ってください。(50頁参照) プーリを回し、ベルトがスムースに動くか確認します。



## 走行駆動ベルトの交換

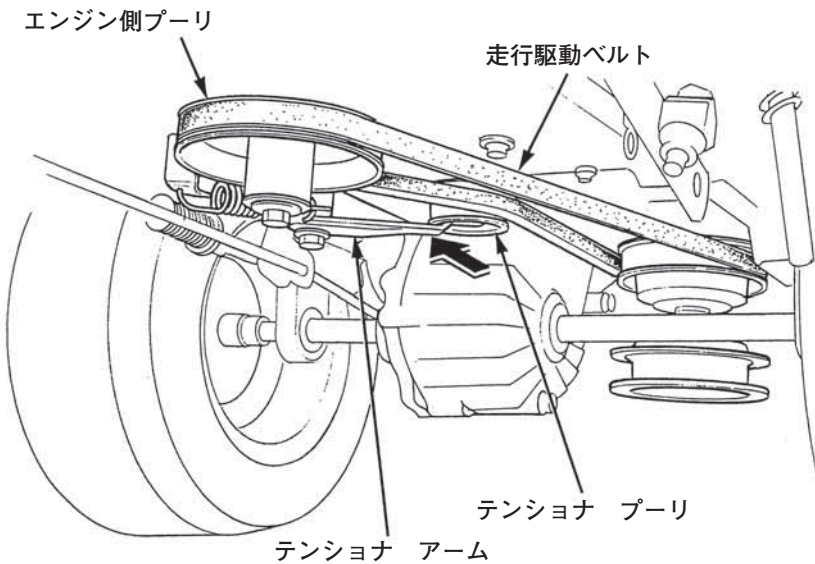
**⚠注意**

**走行駆動ベルトを交換するときは、皮手袋など丈夫な手袋をして、手を挟まれないように注意して行ってください。**

**取扱いのポイント**

**刈刃の取外し、取付け、交換時の作業は適切な工具と整備技術をお持ちの方が実施してください。**

1. 刈刃カバーを外してください。(47～48頁参照)
2. テンショナ　アームを矢印の方向に強く押しながらテンショナ　プーリよりベルトを外してください。次にエンジン側プーリより走行駆動ベルトを外してください。
3. 走行駆動ベルトを後方へ引きながら外してください。
4. 新しい走行駆動ベルトを取付けてください。
5. ベルトを取付け後、上記作業の逆の方法で取付けを行ってください。



## 刈刃の点検、交換

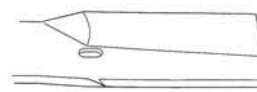
**⚠警告**

- **作業を安全に行うために、刈刃の作業前点検を行ってください。刈刃のゆるみ、摩耗、割れ、曲がりなどを放置すると、刈刃が折損して飛び出し、作業者や付近にいる人に当たるなどして重大な人身事故を招くおそれがあります。**
- **刈刃の点検をするときは、エンジンを停止し点火プラグ　キャップを外してから皮手袋など丈夫な手袋を着用して行ってください。刈刃でケガをするおそれがあります。**

### 1. 刈刃の点検

～1. エンジンを停止し、点火プラグ　キャップを外します。
～2. 刈刃カバーを外します。(47～48頁参照)
～3. 刈刃カバーを裏返し、刈刃の割れ、曲り、摩耗を点検します。

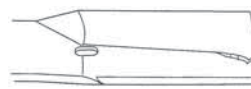
**新品**



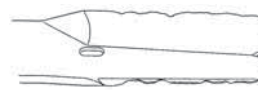
**交換**

下の図のような異常な状態になったら交換してください。

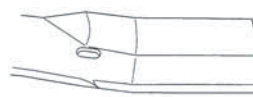
**割れ**



**欠損**



**曲り**



・乾燥した土や砂を含んだ土中で使用すると刈刃の摩耗が早い為頻繁に点検してください。

～4. 刈刃カバーを取付けます。

## 2. 刈刃の交換

**取扱いのポイント**

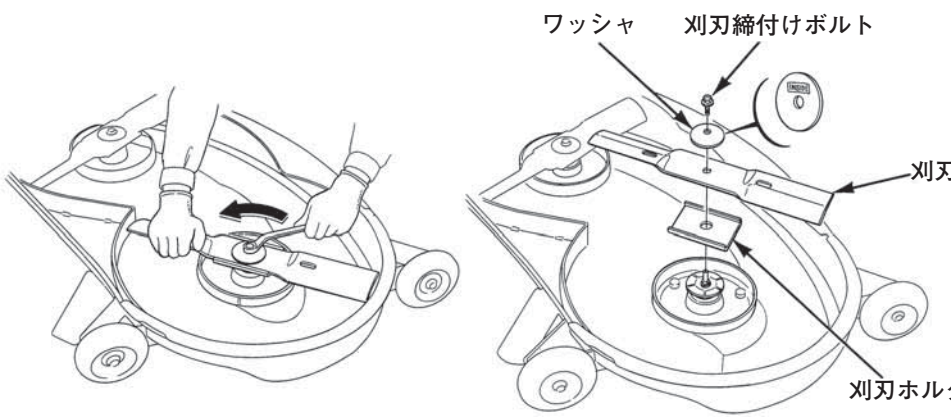
- **刈刃の取外し、取付け、交換時の作業は適切な工具と整備技術をお持ちの方が実施してください。**
- **刈刃を交換する場合は、Honda純正部品をご使用ください。**
- **刈刃締付けボルトは規定トルクで締付けられています。ボルトがゆるまない場合は、お買いあげ販売店にお申しつけください。**

### ■ 刈刃の取外し

～1. 刈刃カバーを外し（47～48頁参照）、裏返します。

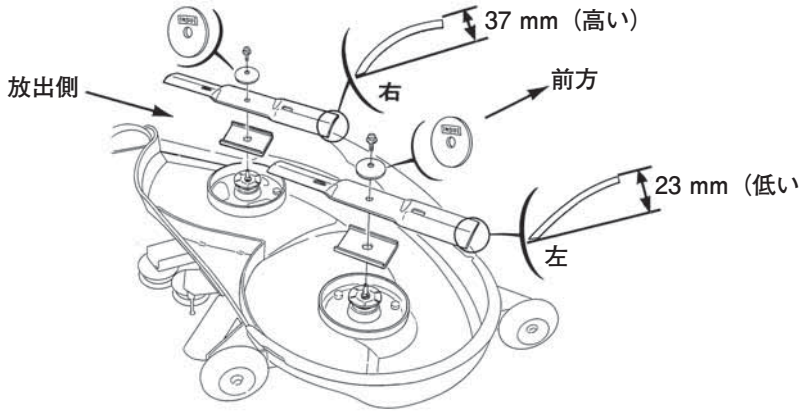
～2. 丈夫な皮手袋などをした手で、刈刃の先端をしっかりとささえ、レンチで刈刃締付けボルトをゆるめます。

～3. 刈刃締付けボルトを外し、ワッシャ、刈刃、刈刃ホルダを取外します。

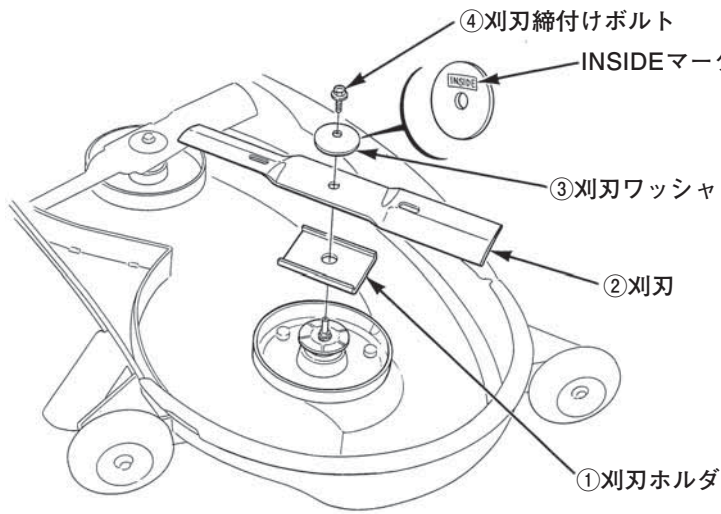


■ 刈刃の取付け

・刈刃は右側、左側それぞれ専用のものが取付けられています。下図に従って左、右まちがいのないよう取付けてください。




～1. 刈刃の取付けは下図に従って①、②、③、④の順序で行ってください。刈刃ワッシャは " INSIDE " のある側を刈刃の方へ向けて取付けてください。




**取扱いのポイント**

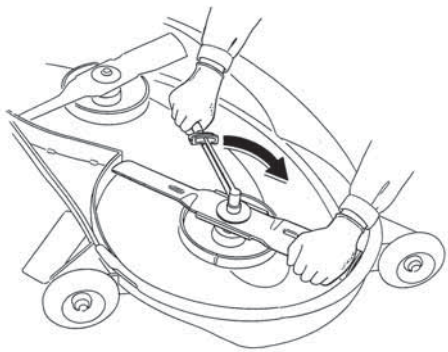
**刈刃締付けボルトは専用ボルトです。他のボルトを代用しないでください。**

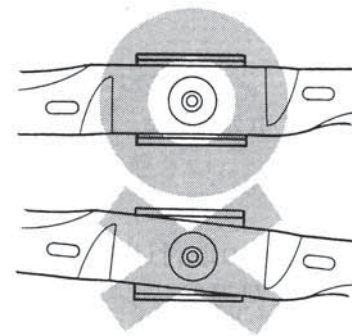
■ **刈刃の締付け、トルク確認**

～1. 丈夫な皮手袋などをした手で刈刃の先端をしっかりささえ、刈刃締付けボルト（14mm）をトルク　レンチを使用して締付けます。

**指定トルク：49N・m（5.0kgf・m）**

刈刃を締付けるときは刈刃ホルダと平行に、また刈刃ホルダの端に刈刃が乗り上げないように注意してください。





～2. 刈刃を取付けてから、刈刃を手で回して刈刃カバーと刈刃が接触しないことを確認してください。

接触する場合は、お買いあげ販売店へお申しつけください。

## ヒューズの交換

**⚠注意**

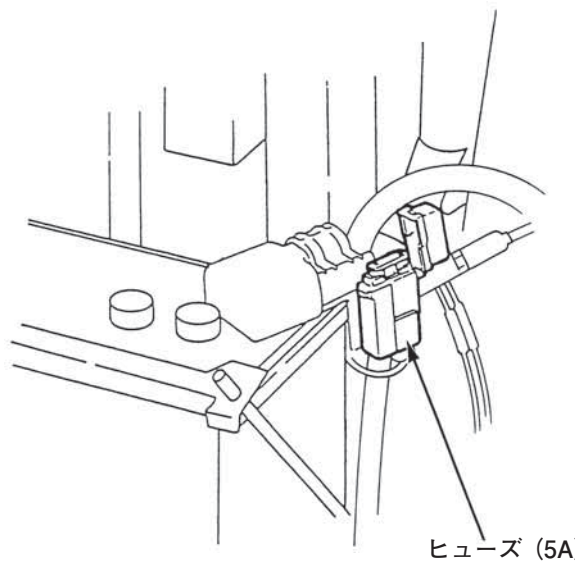
**ヒューズを点検、交換するときは、エンジンを停止してエンジン　スイッチ　キーを外して行ってください。**

ヒューズが切れたら、その原因を調べてから規定容量のヒューズに交換してください。
そのまま交換しても、再び切れるおそれがあります。

**取扱いのポイント**

**指定ヒューズ以外の物、たとえば針金、銀紙などを使用すると配線などを焼損させる原因となります。指定ヒューズ以外のものは使用しないでください。**

切れたヒューズを抜いて、新しいヒューズに交換します。
**規定容量：5A**



## スパーク　アレスタの清掃

スパーク　アレスタが目詰りすると出力不足やエンジン不調の原因になりますので、定期的に清掃してください。

**《清掃時期》**

6か月毎または100時間運転毎

**清掃のしかた**

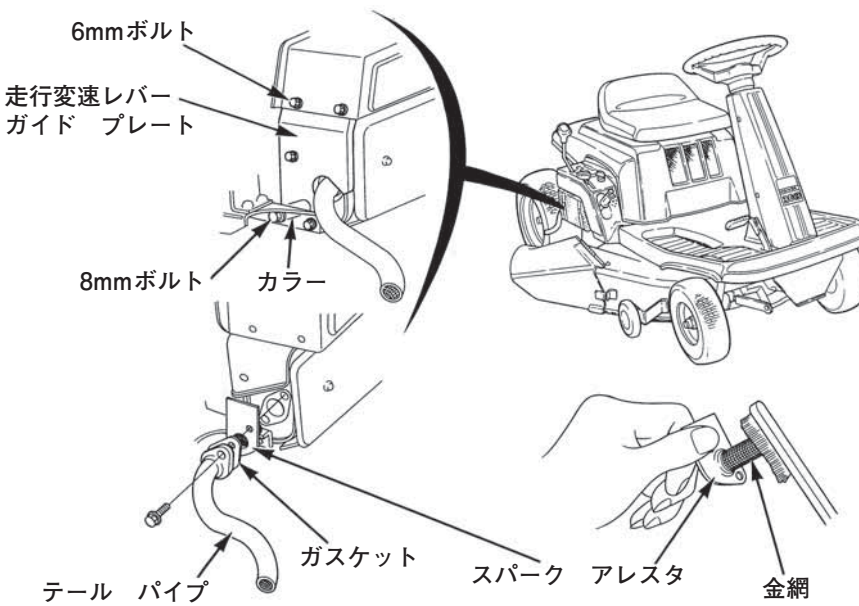
1. 8mmボルト1本と6mmボルト4本を外し、走行変速レバー　ガイド　プレート、カラーを外します。
2. 6mmボルト2本を外しテール　パイプ、ガスケット、スパーク　アレスタを外します。

●スパーク　アレスタを外すときは、金網を変形させないように注意してください。

3. 柔らかめのワイヤ　ブラシでスパーク　アレスタの金網の目詰（カーボン）をきれいに取除いてください。

●清掃するときは、金網を変形させないように注意してください。

4. 清掃後、取外した部品を元通りに確実に取付けてください。

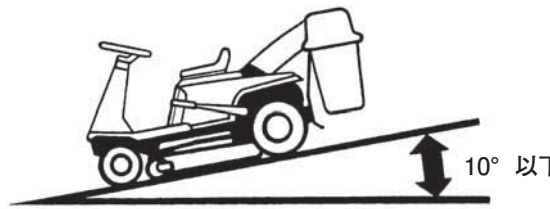


## トラックへの積み降ろし

**⚠警告**

**車への積み降ろしをする場合は、必ずアユミ板を使用しゆっくり行ってください。転倒落下によりケガをするおそれがあります。**

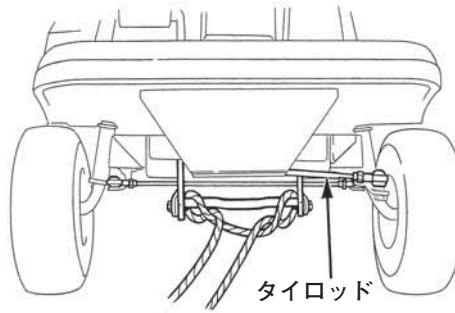
1. 積み降ろしは平坦な場所で行ってください。
2. 使用するアユミ板は本機の重量＋作業者の体重に耐えられる物を使用してください。
   本機の総重量：約192kg
3. アユミ板の傾斜角度が 10 度以下になるようなアユミ板を選んでください。



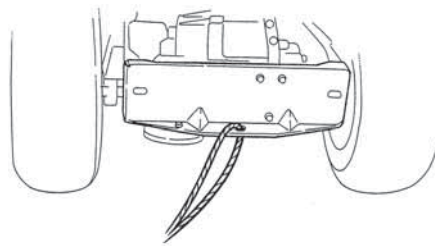

4. 幌または、キャブ付のトラックでは、あらかじめ高さを確認してください。
5. 燃料を確認してください。少ないとエンストしてしまうことがあります。
6. アユミ板は車に対し真直ぐ、しっかりとかけてください。
7. アユミ板は乗る前に、タイヤとアユミ板が一直線であることを確認してください。
8. 刈刃カバーを最上段に上げ、後ろ向きで積み込んでください。
9. ハンドルをしっかり保持し、十分に速度をおとしてゆっくり行ってください。

10. 積載後は、エンジンを停止し、駐車ブレーキをかけて、エンジン　スイッチ　キーを外します。下図に示した所をロープで確実に固定してください。

前部




後部



**取扱いのポイント**

- **本機を固定するときは、上図のようにロープをかけてください。タイロッドにロープをかけると、変形することがあります。**
- **運搬するときは、燃料コック　レバーを " OFF "（止）にしてください。また燃料がこぼれないように本機を水平に保ってください。**

# 長 期 間 使 用 し な い と き の 手 入 れ

**長期間運転しない場合、または作業を終り長期間格納する場合は次の手入れを行ってください。**

30日以上使用しないときは、燃料タンクとキャブレータ内の燃料を抜いてください。古くなった燃料は故障の原因となります。

**⚠警告**

- **エンジン停止直後マフラや点火プラグなどは非常に熱くなっており、やけどをするおそれがあります。作業はエンジンが十分冷えてから行ってください。**
- **本機を平坦な場所に停止し、駐車ブレーキ　レバーを "駐車" の位置にしてください。誤ってエンジンが始動しないようにエンジン　スイッチ　キーを外して手入れを行ってください。**

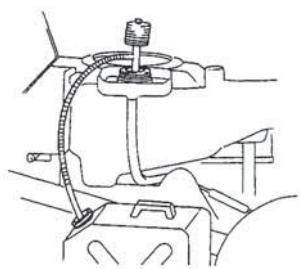
1. 燃料タンク内の燃料を抜いてください。

**⚠警告**

**ガソリンは非常に引火しやすく、また気化したガソリンは爆発して死傷事故を引き起こすことがあります。**

- **換気の良い場所で行ってください。**
- **火気を近づけないでください。**
- **ガソリンはこぼさないようにしてください。万一こぼれた場合は、布きれなどで完全にふき取り火災と環境に注意して処分してください。**

2. キャブレータ内の燃料を抜いてください。
   燃料排油ボルト（ドレン　ボルト）を回して適切な容器に燃料を抜いてください。



**取扱いのポイント**

**次回使用時は、新鮮な燃料を入れてください。**

3. エンジン　オイルを交換してください。交換方法は42頁を参照してください。
4. バッテリを外して（19頁参照）、涼しく乾燥した場所に保管してください。
   6か月に1回は充電してください。
5. 刈刃カバーを外してください。（47～48頁参照）
6. 刈刃カバーを逆にして、刈刃カバーの内側を水でよく洗ってよく乾かしてください。刈刃には、エンジン　オイルを塗布してください。
7. 芝くずを完全に取り、刈刃カバーの塗装がはげている場合は、その部分の錆を取り除いて防錆塗料を塗布してください。
8. 刈刃カバーを取付けてください。（49頁参照）
9. 駐車ブレーキをかけて、風通しの良い湿気の少ない場所に本機を水平に保管してください。

● 本機にカバーをかけてほこりがつかないようにしてください。保管中は、定期的にタイヤ空気圧を点検し、必要に応じて空気を入れてください。

保管後使用する場合は、**"作業前に点検、調整しましょう"**の点検項目を行ってから作業に取りかかってください。

# 故　障　の　と　き　は

**まずご自身で次の点検を行い、その上でなお異常があるときは、むやみに分解しないでお買いあげ販売店へお申しつけください。**

**1.　始動しないときは次の点を確かめましょう。**

1. 始動方法は取扱説明書通りですか？（33～35頁参照）
2. 燃料はありますか？（21～22頁参照）
3. エンジン　オイルは規定量ありますか？（20頁参照）
4. 点火プラグ　キャップは確実に取付けられていますか？（45頁参照）
5. 点火プラグは汚れ、濡れていませんか、また火花すき間は適正ですか？（45頁参照）
   - 点火プラグの清掃や火花すき間の調整が正しく行えない場合、新しい点火プラグと交換してください。

少し時間をおいてもう一度確かめましょう

**2.　刈取り出来ないときは、**

- 走行変速レバーが **" 芝刈り "**（低速）になっていますか？（38頁参照）
- 刈刃クラッチ　レバーは **" 入 "** になっていますか？（37頁参照）
- 刈刃ベルトが摩耗、切れていませんか？（25頁参照）

**3.　走行しないときは、**

- 走行変速レバーは入っていますか？（38頁参照）
- 走行駆動ベルトが摩耗、切れていませんか？
- マニュアル　レバーは **" 緑 "** マーク（通常使用時）の位置になっていますか？（17頁参照）
- 変速機オイルは入っていますか？（31頁参照）

故障の修理
お買いあげ販売店へお申しつけください。

# 主　要　諸　元

| | |
|---|---|
| 名　称 | H3013H |
| 型　式 | MZAH |

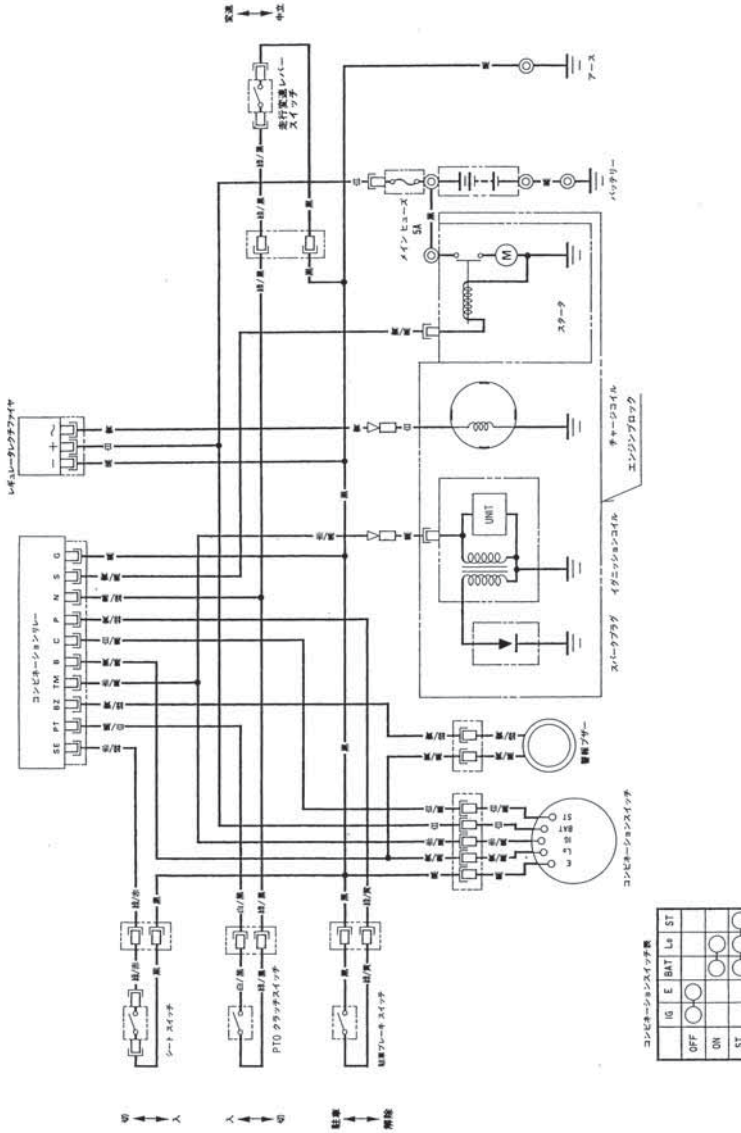
## エンジン

| | |
|---|---|
| 形　式 | 強制空冷4ストローク頭上弁式 |
| 総排気量 | 389 $cm^3$ |
| 内径×行程 | 88.0×64.0 mm |
| 点火時期 | 上死点前20°　±2° |
| 点火方式 | トランジスタ　マグネト点火 |
| オイル容量 | 1.1 L |
| 点火プラグ | BPR5ES（NGK） |

## フレーム

| | |
|---|---|
| 全長 | 1,550 mm |
| 全幅 | 1,260 mm |
| 全高 | 1,000 mm |
| 刈幅 | 約970 mm |
| 刈高さ | 約19～82 mm（6段階） |
| 乾燥質量（重量） | 185 kg |
| 軸距 | 1,100 mm |
| 輪距 | 前輪　570 mm　　後輪　660 mm |
| タイヤサイズ<br>空気圧 | 前輪：11×4.00－5　　後輪：16×6.50－8<br>前輪98 kPa（1.0kgf/$cm^2$）　後輪：67 kPa（0.7kgf/$cm^2$） |
| 変速方式 | 油圧式無段変速方式 |
| 走行速度(3300回転時)<br>前進（最高速度）<br>芝刈速度<br>後進（最高速度） | <br>7.5 km/h<br>5.3 km/h<br>2.7 km/h |
| HST(変速機)オイル容量 | 4.6 L |
| 燃料タンク容量 | 1.9 L |
| バッテリ | 標準12V30AH |
| 収納袋容量 | 220 L/2袋（別売部品） |

注意：諸元は予告なく変更することがあります。


変速
中立
走行変速レバースイッチ
アース
バッテリー
メインヒューズ 5A
スタータ
チャージコイル
エンジンロック
イグニッションコイル
スパークプラグ
UNIT
レギュレータレクチファイヤ
コンビネーションリレー
警報ブザー
コンビネーションスイッチ
シートスイッチ
PTOクラッチスイッチ
駐車ブレーキスイッチ
切
入
駐車
解除
コンビネーションスイッチ表
IG
E
BAT
La
ST
OFF
ON
ST

# メ　　モ

# メ　　モ

Honda汎用製品についてのご相談・ご意見は、
まず、Honda販売店にお気軽にご相談ください。

販売店

TEL

本田技研工業株式会社　　お客様相談センター

全国共通フリーダイヤル　　0120-112010
（受付時間　　9:00～12:00　　13:00～17:00）

HONDA

The Power of Dreams

30763902
00X30-763-9022

Ⓢ Ⓝ 200.2010.05
© 2004 本田技研工業株式会社